

河川環境情報地図ガイドライン（案）

第 2.0 版

平成 18 年 8 月

国土交通省 河川局 河川環境課

目 次

1. 河川環境情報地図データ作成作業 実施要領	1-1
2. 河川環境情報地図データ作成作業 データファイル仕様	2-1
2.1 概 要	2-1
2.2 データファイルの概要	2-1
2.2.1 ファイルの種類	2-1
2.2.2 各ファイルの構造	2-2
2.2.3 各ファイルのレコード内容	2-5
2.2.4 各ファイル名のファイル名定義	2-11
2.3 主題データ構成および属性レコードの記載事項	2-12
2.3.1 主題データの構成	2-12
2.3.2 属性データの記述内容	2-16
2.3.3 主題データのファイル名	2-25
3. 河川環境情報地図データ作成作業 項目別データ取得基準細則	3-1
3.1 各項目に共通する事項	3-1
3.2 魚類調査	3-6
3.3 底生動物調査	3-8
3.4 植物（相）調査	3-10
3.5 鳥類調査	3-11
3.6 両生類・爬虫類・哺乳類調査	3-12
3.7 陸上昆虫類等調査	3-15
3.8 河川環境基図作成調査	3-16

【本書の利用にあたって】

本ガイドライン（案）は、平成 18 年度に改訂された「河川水辺の国勢調査（河川版）」の調査マニュアルに基づいて実施した調査結果データを、GIS データ化する際に利用することを目的としている。

本ガイドライン（案）は、「河川基盤地図ガイドライン（案）第 2.1 版 平成 13 年 12 月 国土交通省河川局河川計画課」に準拠しており、一部その内容を引用している。

（改訂履歴）

平成 12 年 1 月 河川環境情報地図ガイドライン（案） 策定
平成 18 年 8 月 河川環境情報地図ガイドライン（案） 改訂 （第 2.0 版）

1. 河川環境情報地図データ作成作業 実施要領

第1章 総則

(目的)

第1条 この要領は、河川環境情報地図データ作成作業におけるデータの計測、構造化編集等の作業方法等を定めることにより、成果品等の規格を統一するとともに必要な精度を確保することを目的とする。

河川環境情報地図データの構成

河川基盤地図データ	基図データ	河川として標準的に整備すべき地図データ 多くの用途に利用できる基盤的データ及び必要最低限の背景図データ 「河川基盤地図ガイドライン(案) 第2.1版 平成13年12月 国土交通省河川局河川計画課」により作成する
	その他の地図データ	河川環境に関する業務ごとに発生する地図データ
	地理情報データ	標準的に利用できる既整備の地理情報

(主題データの構成と適用範囲)

第2条 河道、沿川、流域の各々に分布する河川環境情報地図で取り扱う主題データは、必要とする詳細さ(位置精度のレベル)が領域によって異なるため、次の2種類の精度で整備する。なお、河川環境情報地図は「河川基盤地図ガイドライン(案) 第2.1版 平成13年12月 国土交通省河川局河川計画課」により作成される図面を基図とすることを基本とする。ただし、河川基盤地図が作成されていない場合には、既存のラスター図等を基図として利用できるものとする。

精度	対象範囲	対象区間	データの種類
1/2,500 レベル (詳細地図整備)	河道および沿川 200 ~500mの範囲	河川環境に関する調査が実施される河川区間	河川主題データ
1/25,000 レベル (概略地図整備)	流域全体	全法河川	流域主題データ

(他の規程等との関係)

第3条 河川環境情報地図データ作成作業は、基本的に空間データ基盤作成作業で作成する構造化データのフォーマットに準ずるものとする。他の規程等に特別の定めがある場合を除いて、この要領の定めるところによる。

(作業内容)

第4条 河川環境情報地図データ作成作業においては、デジタルマッピング、1/2,500 河川図、その他の資料図等を計測または取得して構造化編集を行い、データファイルを作成する。

2 データファイルは、標準地域メッシュ二次メッシュ単位に作成する。対象とするデータ項目は、以下に示す主題データとする。

河川主題データ (1/2,500)

調査項目	主題名	調査項目	主題名	
魚類調査	調査地区範囲	両生類・爬虫類・哺乳類調査	調査地区範囲	
	調査対象環境区分(水域)		フィールドサイン調査ルート	
	調査対象環境区分(水際部)		フィールドサイン確認場所	
	調査対象環境区分(水際部)線		トラップ設置箇所	
	調査箇所		無人撮影装置設置位置	
	漁具設置箇所		撮影方向	
	撮影方向		撮影位置	
	撮影位置		川の流れの方向	
	川の流れの方向		コメント	
	コメント			
底生動物調査	調査地区範囲	陸上昆虫類調査	調査地区範囲	
	調査対象環境区分(水域)		任意採集法調査ルート	
	調査対象環境区分(水際部)		任意採集法以外の実施地点	
	調査対象環境区分(水際部)線		撮影方向	
	定性採集範囲		撮影位置	
	定量採集位置(コドラート位置)		川の流れの方向	
	定量採集(汽水域)線		コメント	
	撮影方向			
	撮影位置		河川環境基図作成調査	調査地区範囲
	川の流れの方向			植物群落
コメント	植物群落組成調査地点(コドラート位置)			
	植生断面調査 歩行ルート			
	水域環境区分			
	水際部環境区分			
	水際部環境区分線			
	河川横断工作物範囲			
	樋門・樋管			
	魚道			
植物調査(相調査)	調査地区範囲		撮影方向	
	踏査ルート		撮影位置	
	重要種確認位置		川の流れの方向	
	特定外来種確認位置		コメント	
	撮影方向			
	撮影位置			
	川の流れの方向			
	コメント			
鳥類調査	スポットセンサス調査箇所			
	スポットセンサス視野範囲			
	集団分布地			
	撮影方向			
	撮影位置			
	川の流れの方向			
	コメント			

流域主題データ (1/25,000)

調査項目	主題名	備考
魚類調査	調査地区	対象調査地区の中心の位置
底生動物調査	調査地区	対象調査地区の中心の位置
植物(相)調査	調査地区	対象調査地区の中心の位置
両生類・爬虫類・哺乳類調査	調査地区	対象調査地区の中心の位置
陸上昆虫類等調査	調査地区	対象調査地区の中心の位置
河川環境基図作成調査	調査地区	対象調査地区の中心の位置

- 3 河川環境情報地図データの整備更新については、以下の方法に準拠するものである。
- (1) 地図データの整備にあたり基本とする資料は、「平成 18 年度版 河川水辺の国勢調査基本調査マニュアル〔河川版〕」とする。
 - (2) 地図データの追加は、「河川水辺の国勢調査」実施の都度行う。

(作業方法)

- 第 5 条 前条第 2 項の主題データ (1/2500 レベル) の作成については、本条第 1 項および第 2 項で作成された背景データの出力図または 1/2,500 河川図等にデータを記入後、デジタル化を行って取得するものとする。
- 2 前条第 2 項の主題データ (1/25000 レベル) の作成については、本条第 4 項で作成された背景データの出力図または 1/25,000 地形図等にデータを記入後、デジタル化を行って取得するものとする。

(作業工程)

第 6 条 作業工程は、原則として次の各号のとおりとする。

- (1) 計画・準備作業
- (2) 計測基図作成作業
- (3) 数値データの計測および出力作業
- (4) データファイル作成作業

(工程管理および精度管理)

- 第 7 条 作業班長は、担当する作業の全般にわたり適切な工程管理および精度管理を行わなければならない。
- 2 精度管理の結果は、精度管理表に記録する。
- 3 精度管理等の結果不相当と認められた事項については、監督員に連絡するとともに速やかに是正措置を講じなければならない。

(点検および再点検)

第 8 条 作業者は、各工程の中間および終了時において所要の点検を行い、点検者は、各工程の終了時に再点検を行わなければならない。

(作業区分等の変更)

第 9 条 この要領で定められた作業方法、作業区分および順序については、作業能率を向上し、かつ、必要な精度を保持し得ると認められる場合には、監督員の承認を得て変更することができる。

第2章 計画・準備作業

(要旨)

第10条 計画・準備作業とは、全般的な作業計画の立案、作業に必要な資料、物品、器材等の準備、その他次章以下の作業に先立って行うべき予備的な作業をいう。

(作業計画)

第11条 作業計画の立案に当たっては、一連の作業を効率的に実施するため、「河川環境情報地図データ作成作業データファイル仕様」等に基づき、作業手順、実施方法等について十分考慮しなければならない。

第3章 計測基図作成作業

(要旨)

第12条 計測基図作成作業とは、必要に応じて計測に必要な項目を地図・出力図等に明示、補描または不要部分を抹消し、計測用基図を作成する作業をいう。

(計測基図)

第13条 計測基図は、精度が確認された場合において、監督員の承認を得て拡大図を使用することができる。

- 2 計測基図は、隣接図葉との接合をとるものとする。接合部に著しい不具合が生じる場合は、監督員の指示による。

第4章 数値データの計測および出力作業

(要旨)

第14条 数値データの計測および出力作業とは、計測基図からデジタイザ、スキャナ、編集装置等を用いて数値データの計測、属性データの入力、データ編集および出力する作業、もしくは、デジタルマッピングにより数値データの計測を行い、属性データの入力、データ編集および出力する作業をいう。

(数値データの計測作業)

第15条 マップデジタイズによる数値データの計測作業においては、デジタイザ、スキャナ、編集装置等を用いて、計測基図等から第4条第2項に規定する項目の計測を行う。計測方法は、デジタイザによる直接計測またはスキャナ計測によるラスタ・ベクタ変換とする。

- 2 デジタルマッピングによる数値データの計測作業においては、航空写真測量等により第4条第2項に規定する項目の計測を行う。
- 3 計測の対象項目の詳細は、「河川環境情報地図データ作成作業データファイル仕様」および「河川環境情報地図データ作成作業項目別データ取得基準細則」による。
- 4 計測データに付与される図式分類コードは、「河川環境情報地図データ作成作業データファイル仕様」による。

(デジタイザ計測)

第16条 デジタイザによる計測作業においては、計測基図の図郭四隅の計測を行う。図郭四隅の座標は、各図面の計測の前後に各1回計測し、2回の計測値の較差が図上0.3mmを超える場合は、当該図面を再計測する。

(スキャナ計測)

第17条 スキャナ計測作業により計測したデータは、ディスプレイ上に表示し、図形の復元状況を点検する。点検の結果、図形の脱落・変形がある場合は、再計測する。

- 2 ラスタ・ベクタ変換は、計測基図に忠実なベクタデータを得ることのできる適切な方法とする。

(デジタルマッピング)

第 18 条 デジタルマッピング作業においては、図形の平面位置および標高の表現精度の点検を行う。点検の結果、所定の精度が得られない場合は、再処理する。

(属性データの入力)

第 19 条 計測したデータには、編集装置等を用いて必要な属性情報を入力する。

- 2 入力する属性データの詳細は、「河川環境情報地図データ作成作業データファイル仕様」による。

(データ編集)

第 20 条 計測されたデータおよび 1/2,500 デジタルマッピングデータ、数値地図 25000 等から取得されたデータは、編集することにより相互に整合を図る。

- 2 地図データは、標準地域メッシュの二次メッシュの図郭四隅を基準とする正規化座標に変換する。正規化座標は、図郭左下を(0.00, 0.00)、右上を(10,000.00, 10,000.00)、右下を(10,000.00, 0.00)、左上を(0.00, 10,000.00)とする。
- 3 メッシュデータは、標準地域メッシュ二次メッシュまたは独自のメッシュの図郭四隅を基準とする正規化座標に変換する。
- 4 異なる作成方法、計測基図等により作成されたデータは、ファイル内および接合部において整合するものとする。特に、街区縁データと建物ラスタデータとの間で整合しない場合は、監督員の指示により街区縁データを修正する。

(構造化作業)

第 21 条 計測作業、属性データ入力作業で得られたデータは、編集装置を用いて、対話処理、自動処理およびこれらを併用した処理により以下の構造化を行う。

- (1)属性データと対応づける。
 - (2)線データの接続関係を認識する。
 - (3)線データをポリゴン認識させ、属性データを付与する。
- 2 新たに認識されたポリゴンデータに付与される図式分類コードは、「河川環境情報地図データ作成作業データファイル仕様」による。

(隣接図との接合)

第 22 条 データは、隣接図葉間で接合させ、各接合要素の座標値を一致させる。

第 5 章 データファイル作成作業

(要 旨)

第 23 条 データは、「河川環境情報地図データ作成作業データファイル仕様」に従い、磁気テープ等の記録媒体に記録し、データファイルを作成する。

(データファイルの点検)

第 24 条 作成されたデータファイルは、自動製図機等を用いて出力図を作成し、計測基図等と比較対照することにより、データの誤り等を点検する。また、プログラム等によりファイルフォーマットを点検する。

- 2 出力図は、原則としてデータ項目ごとに計測基図と同縮尺のものを作成する。ただし、必要に応じ監督員と協議の上、計測基図と異なる縮尺や複数のデータ項目についての出力図を作成することができる。
- 3 点検の結果、データに誤りがある場合には、当該データを修正する。

(成果等)

第 25 条 成果等は、次の各号のとおりとする。

- (1) データファイル
- (2) 精度管理表
- (3) データファイル作成記録
- (4) 資料
 - 計測基図
 - 出力図
 - その他の資料

2. 河川環境情報地図データ作成作業 データファイル仕様

2.1 概要

河川環境情報地図データ作成作業で作成されるデータは、基本的に空間データ基盤作成作業で作成する構造化データのフォーマットに準ずるものとする。

- 図式分類コードは河川環境情報地図データ作成作業で定めたものを使用する。
- 必要要素（アーク、ポリゴン等）ごとにファイルを作成し、ファイル、ディレクトリーのツリー構造とする。
- 項目はカンマ区切りとし、項目長、レコード長は可変とする。
- 日本語はシフトJISとする。
- 標準地域メッシュの二次メッシュ(1/25,000)内の 10,000 × 10,000 正規化座標を単位としてデータを格納する。

2.2 データファイルの概要

2.2.1 ファイルの種類

(1)レイヤー管理ファイル

(2)地図データ

1)アークファイル

2)ポリゴンファイル

3)点ファイル

4)属性ファイル

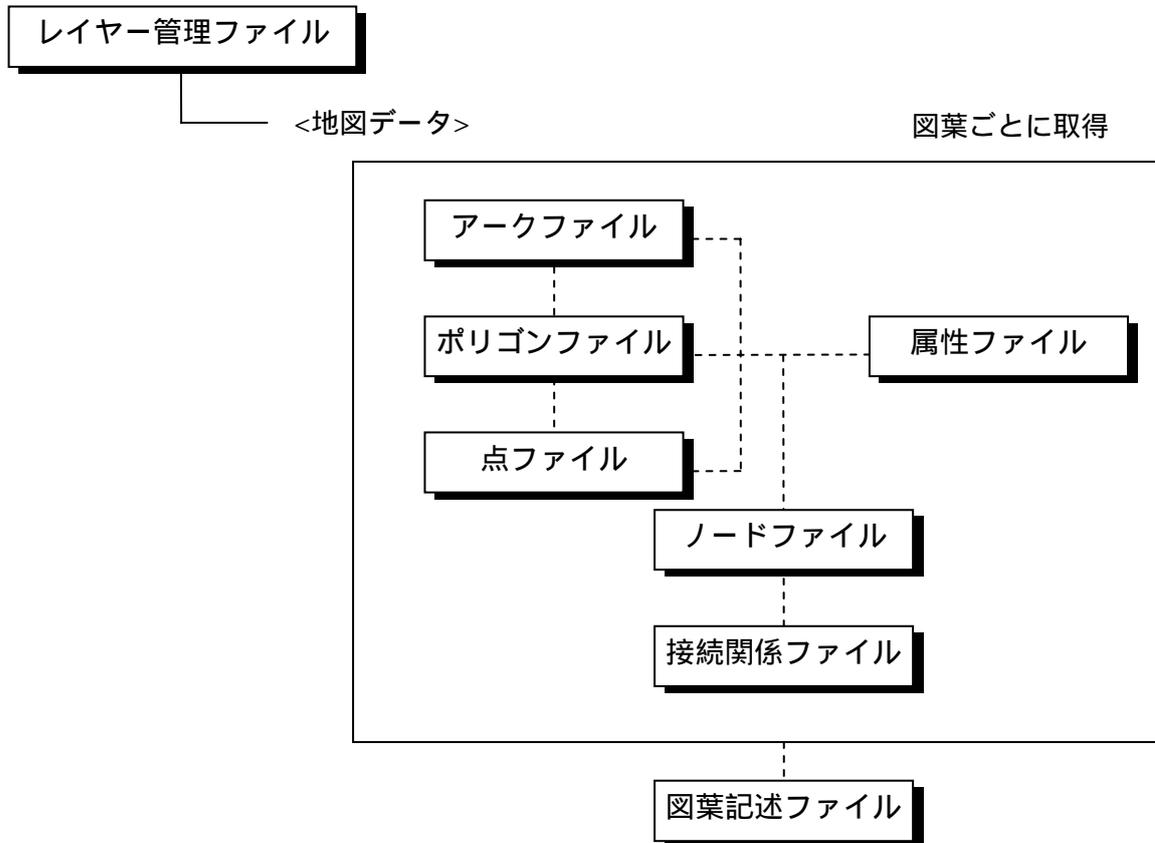
5)ノードファイル

6)接続関係ファイル（ネットワーク）

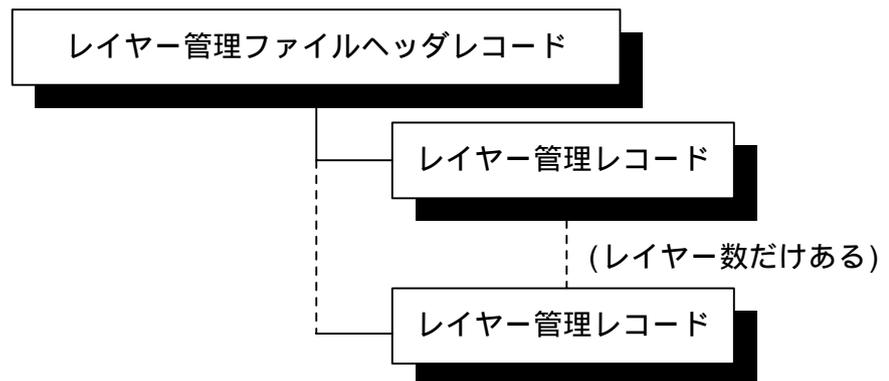
7)図葉記述ファイル

2.2.2 各ファイルの構造

(1) 全体構成

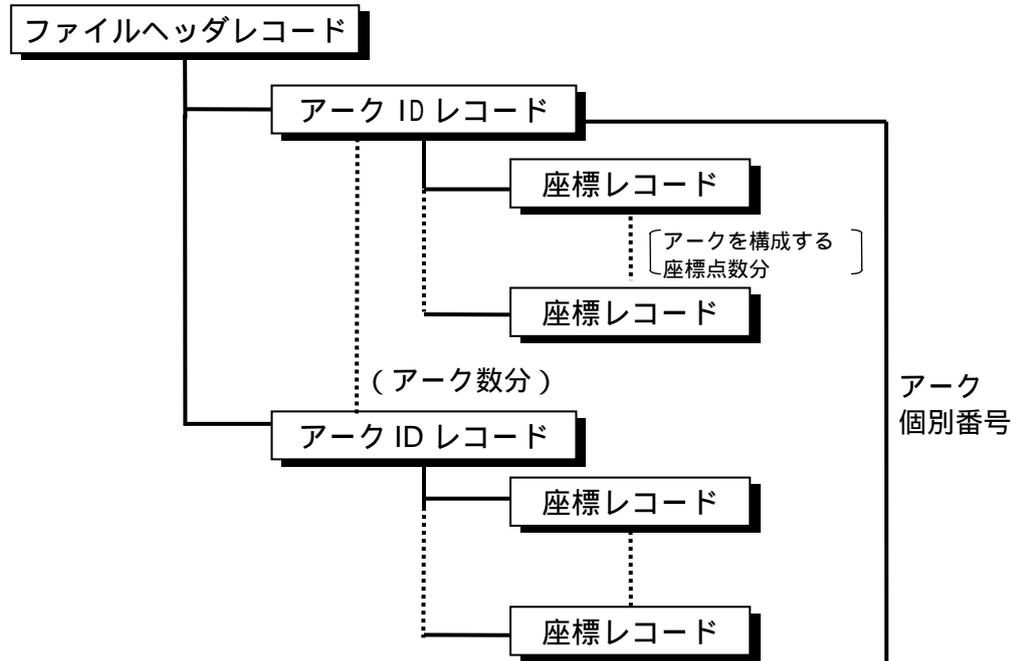


(2) レイヤー管理ファイル

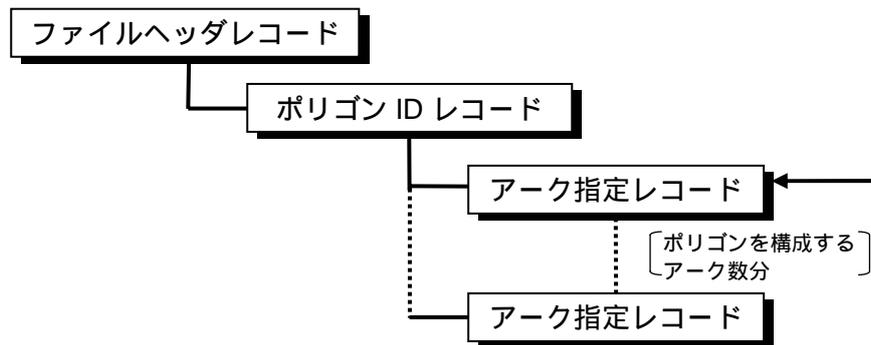


(3)地図データ

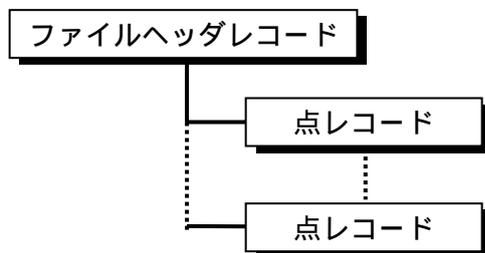
1)アークファイル



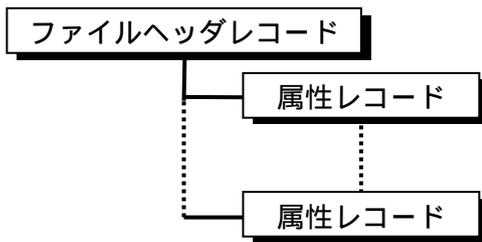
2)ポリゴンファイル



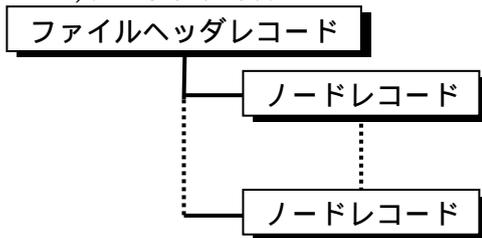
3)点ファイル



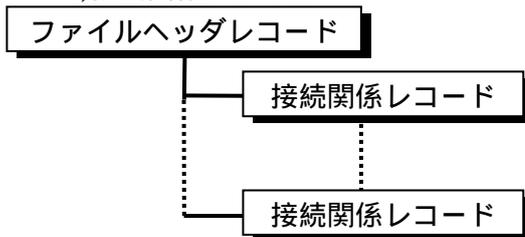
4)属性ファイル



5)ノードファイル

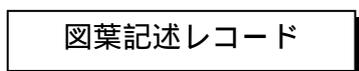


6)接続関係ファイル



7)図葉記述ファイル

当該図葉に関する各種の情報（測量計画機関、データ作成方法、準拠座標系、座標数値の単位、基準測地系等）を記述するファイル。



2.2.3 各ファイルのレコード内容

以下において、罫線枠で囲まれたそれぞれの箱が一つのフィールドを表わす。既に述べたように各フィールドはカンマで区切られ、各レコードの終わりには<CR><LF>コードが付される。

(1)レイヤー管理ファイル

1)レイヤー管理ファイルヘッダレコード

LH	ファイル名	レコード総数
----	-------	--------

- A)LH：レイヤー管理ファイルヘッダレコードであることを表す識別子。“LH”の文字を記載。
- B)ファイル名：当該ファイルの名称
- C)レコード総数：当該ファイルに含まれるレコード（レイヤー）の総数。レイヤー管理ファイルヘッダ自身を含めて数える。

2)レイヤー管理レコード

図式分類コード	原図作成年次	原図作成者	原図管理者	原図の縮尺	データ作成年次	データ作成者	データ管理者	データの縮尺	備考
---------	--------	-------	-------	-------	---------	--------	--------	--------	----

- A)図式分類コード：「表 2-1 ~表 2-3 河川環境情報地図主題データ項目の図式分類コードと属性内容」に規定する図式分類コードを記載する。これは、河川環境情報地図データであることを表す"W"、各必要要素別の識別子を表すアルファベットの後に、河川環境情報地図データの各情報項目を表す 4 桁のコードを付加したものである。
- B)原図作成年次：取得データの原図の作成年月日（西暦で表記）
- C)原図作成者：取得データの原図の作成者および所管
- D)原図管理者：取得データの原図の管理者および所管
- E)原図の縮尺：取得データの原図の縮尺（1 / で表記）
- F)データ作成年次：データ取得の作成年月日（西暦で表記）
- G)データ作成者：データ取得者および所管
- H)データ管理者：データ取得時管理者および所管
- I)データの縮尺：データ取得時の縮尺（1 / で表記）
- J)備考：同一レイヤーで原図の条件およびデータ取得条件が異なる場合等に記述。カンマは使用不可。

(2)地図データ

1)ファイルヘッダーレコード

FH	図名	ファイル名	レコード総数	要素の総数	座標系フラグ	座標系番号	図郭左下 角の x 座標	図郭左下 角の y 座標	図郭右上 角の x 座標	図郭右上 角の y 座標
----	----	-------	--------	-------	--------	-------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

- A)FH：ファイルヘッダーレコードであることを表す識別子。“FH”の文字を記載。
- B)図名：二次メッシュコード（計6文字）
- C)ファイル名：当該ファイルの名称
- D)レコード総数：当該ファイルに含まれるレコードの総数。ファイルヘッダーレコードを含めて数える。
- E)要素の総数：当該ファイルに含まれる要素の総数。アークやポリゴンではIDレコード数に等しい。
- F)座標系フラグ：座標系を示すフラグ。二次メッシュ単位の正規化座標であることを示すフラグ。“2”を記入する。

座標系フラグ

座標系フラグ	意味
1	平面直角座標系
2	二次メッシュごとの正規化座標系

- G)座標系番号：座標系フラグが“2”の場合、座標系は1種類に限定されるので、値“1”を入れる。
- H)x、y座標：すべて二次メッシュ左下角を（0.00,0.00）、右上角を（10,000.00，10,000.00）とした正規化座標で、小数点付数字（小数点以下2桁）で表す。

2)アーク ID レコード

図式分類コード	線種タグ	個別番号	当該アークを構成する座標レコードの数
---------	------	------	--------------------

- A)図式分類コード：「表 2-1 ~表 2-3 河川環境情報地図主題データ項目の図式分類コードと属性内容」に規定する図式分類コードを記載する。これは、河川環境情報地図データであることを表す“W”、アークIDレコードであることを表す“L”(Line)の後に、河川環境情報地図データの各情報項目を表す4桁のコードを付加したものである。
- B)線種タグ：通常のアークは“0”とする。道路等における高架や地下の区別や、ポリゴンを閉じるために設定する不確実な界線（河口部の海岸線、未定行政界等）等を

表現するために用いるタグについては 5 節に記載する。

- C)個別番号：各アークを区別するための個別番号。1 図葉内に含まれるすべてのアークについて、一意の番号を割り当てる（8 桁以内で、図式分類コードが異なっても同じ番号を割り当てない）。

3)座標レコード

x 座標	y 座標	z 座標
------	------	------

A)x、y 座標：すべて二次メッシュ左下角を（0.00,0.00）、右上角を（10,000.00，10,000.00）とした正規化座標で、小数点付数字（小数点以下 2 桁）で表す。

B)z 座標：メートル単位とし、小数点付数字（小数点以下 2 桁）で表す。（通常は空欄とし、高さ関係の解析が必要な場合等、必要に応じて取得する）。

4)ポリゴン ID レコード

図式分類コード	個別番号	当該ポリゴンを構成するアーク指定レコードの数	代表点の x 座標	代表点の y 座標
---------	------	------------------------	-----------	-----------

A)図式分類コード：「表 2-1 ~表 2-3 河川環境情報地図主題データ項目の図式分類コードと属性内容」に規定する図式分類コードを記載する。これは、河川環境情報地図データであることを表す"W"、ポリゴン ID レコードであることを表す“A”(Area)の後に、河川環境情報地図データの各情報項目を表す 4 桁のコードを付加したものである。

B)個別番号：各ポリゴンを区別するための個別番号。1 図葉内に含まれるすべてのポリゴンについて、一意の番号を割り当てる（8 桁以内で、図式分類コードが異なっても同じ番号を割り当てない）。

C)代表点の x、y 座標：ポリゴン内に含まれる代表点の座標。x、y 座標は、すべて二次メッシュ左下角を（0.00,0.00）、右上角を（10,000.00，10,000.00）とした正規化座標で、小数点付数字（小数点以下 2 桁）で表す。

5)アーク指定レコード

アークの個別番号

A)ポリゴンを右回りに（当該ポリゴンを右に見て）連続して囲むようにアークを指定する。アークの指定には、アーク ID レコードに記載されている個別番号を用いる。アークの座標点列の向きが、右回りの逆の場合には個別番号にマイナスの符号を付ける。

B)ポリゴン内部に当該ポリゴンに含まれない領域があるような多重連結構造を表す場合は、ポリゴンの内および外の境界線の間を結ぶ仮のアーチを設置し、これを往復することで、一筆書きでこのようなポリゴンを表現する。

6)点レコード

図式分類コード	個別番号	x 座標	y 座標	z 座標
---------	------	------	------	------

A)図式分類コード：「表 2-1 ~表 2-3 河川環境情報地図主題データ項目の図式分類コードと属性内容」に規定する図式分類コードを記載する。これは、河川環境情報地図データであることを表す"W"、点レコードであることを表す“P”(Point)の後に、河川環境情報地図データの各情報項目を表す 4 桁のコードを付加したものである。

B)個別番号：各点を区別するための個別番号。1 図葉内に含まれているすべての点について、一意の番号を割り当てる（8 桁以内で、図式分類コードが異なっても同じ番号を割り当てない）。

C)x、y 座標：すべて二次メッシュ左下角を（0.00,0.00）、右上角を（10,000.00 , 10,000.00）とした正規化座標で、小数点付数字（小数点以下 2 桁）で表す。

D)z 座標：メートル単位とし、小数点付数字（小数点以下 2 桁）で表す（通常は空欄とし、高さ関係の解析が必要な場合等、必要に応じて取得する）。

7)属性レコード

図式分類コード	個別番号	属性数	属性 1	属性 2	...	属性 n
---------	------	-----	------	------	-----	------

A)図式分類コードと個別番号で、対応する個別の対象を指定し、第三のフィールドに属性数 n を記載する。第四フィールド以降に属性を記述する。

B)属性ファイルは、項目ごとに別ファイルとする(例えば、調査地区、調査箇所 等々)。詳細は、「表 2-4 ~表 2-6 河川環境情報地図データ 主題データファイル名」参照

C)同一フィールド内では、半角文字と全角文字を混在させない。

D)漢字コードは、シフト JIS コードとする。

8)ノードレコード

ノード番号	図郭・端点タグ	ノードの x 座標	ノードの y 座標	ノードの z 座標
-------	---------	-----------	-----------	-----------

A)ノード番号は 1 図葉内で一意の番号を割り当てる（8 桁以内）。

B)図郭・端点タグは、ノードが図郭線上に位置する場合および端点（行き止まりとなる道路の終端の点）となる場合を示すもので、番号は以下に規定する。

C)x、y 座標：すべて二次メッシュ左下角を(0.00,0.00)、右上角を(10,000.00, 10,000.00)とした正規化座標で、小数点付数字(小数点以下2桁)で表す。

D)z 座標：メートル単位とし、小数点付数字(小数点以下2桁)で表す(通常は空欄とし、高さ関係の解析が必要な場合等、必要に応じて取得する)。

a) 図郭・端点タグ(ノードレコード)

同一座標系内の図郭境界での接続・非接続関係を示すタグ

図郭・端点タグ	ノードの位置	図郭・端点タグ	ノードの位置
0	図郭内部 (端点以外)	10	図郭内部の端点
1	図郭左上角(端点以外)	11	図郭左上角の端点
2	図郭上辺 (端点以外)	12	図郭上辺の端点
3	図郭右上角(端点以外)	13	図郭右上角の端点
4	図郭右辺 (端点以外)	14	図郭右辺の端点
5	図郭右下角(端点以外)	15	図郭右下角の端点
6	図郭下辺 (端点以外)	16	図郭下辺の端点
7	図郭左下角(端点以外)	17	図郭左下角の端点
8	図郭左辺 (端点以外)	18	図郭左辺の端点

座標系の境界での接続・非接続関係を示すタグ

図郭・端点タグ	ノードの位置	図郭・端点タグ	ノードの位置
20	境界線(図郭線との交点以外) (端点以外)	30	境界線(図郭線との交点以外)の端点
21	境界線かつ図郭左上角 (端点以外)	31	境界線かつ図郭左上角の端点
22	境界線と図郭上辺の交点 (端点以外)	32	境界線と図郭上辺の交点の端点
23	境界線かつ図郭右上角 (端点以外)	33	境界線かつ図郭右上角の端点
24	境界線かつ図郭右辺の交点 (端点以外)	34	境界線と図郭右辺の交点の端点
25	境界線かつ図郭右下角 (端点以外)	35	境界線かつ図郭右下角の端点
26	境界線と図郭下辺の交点 (端点以外)	36	境界線と図郭下辺の交点の端点
27	境界線と図郭左下角 (端点以外)	37	境界線かつ図郭左下角の端点
28	境界線と図郭左辺の交点 (端点以外)	38	境界線と図郭左辺の交点の端点

9)接続関係レコード（ネットワーク）

アークの個別番号	始点ノード番号	終点ノード番号
----------	---------	---------

10)図葉記述ファイルの仕様

以下の順に従って1行の情報を1レコードに記述する。ただし、当該図葉に含まれるファイルすべての名称については1行に1ファイルを記述する。

- A)河川環境情報地図データファイルであることの識別文字として「河川環境情報地図データファイル」を記述する。
- B)計画機関名（全角入力）：発注機関名を記述する。
- C)データ作成年月（全角入力）：データ作成年月日を西暦で記述する。
- D)原データに関する最新の図歴（全角入力）：原データとして利用した図面などの名称を記述する。
- E)図名（半角入力）：当該ファイルが含まれる2次メッシュ番号を記述する。
- F)地図情報レベル（縮尺に相当する概念）：半角で、2500または25000とする。
- G)準拠座標系、図葉の左下および右上座標（半角入力）
- H)座標数値の単位（全角入力）：例）メートル
- I)隣接8図郭名（半角入力で、カンマで区切る）
- J)当該図葉に含まれるファイルすべての名称（半角入力）
- K)準拠測地系フラグ（半角入力）：環境情報地図作成の際に利用した測地系（世界測地系、日本測地系）の識別。原則として、環境情報地図は、世界測地系を基準として作成する。

準拠測地系フラグ

座標系フラグ	意 味
0	日本測地系
1	世界測地系

図葉記述ファイルの仕様の中の、「準拠測地系フラグ」に関しては、河川基盤地図ガイドラインでは記述を規定していません。
これは、河川水辺の国勢調査のデータ活用を円滑に行うために、「河川環境情報地図ガイドライン（案）」で独自に規定したものです。

2.2.4 各ファイル名のファイル名定義

(1)レイヤー管理ファイル

ファイル名	データの内容
kankyo.ctl	レイヤー管理ファイル

(2)地図データ

* ファイル名定義

m - - .

- : 河川環境情報地図を示すアルファベット (m)
- : 河川環境情報調査項目を示すアルファベット
- : 情報項目の略称
- : 拡張子

* 調査項目を示すアルファベットの定義

g	魚類調査
t	底生動物
s	植物 (相) 調査
c	鳥類調査
h	両生類・爬虫類・哺乳類調査
k	陸上昆虫类等調査
r	河川環境基図作成調査

* 拡張子の定義

.acr	アーク
.pgn	ポリゴン
.pnt	ポイント
.nod	ノード
.tie	接続関係
.atr	属性
.txt	図葉記述ファイル
.ctl	レイヤー管理ファイル

2.3 主題データ構成および属性レコードの記載事項

河川環境情報地図データの主題データの構成および属性レコードの記載事項を示す。

2.3.1 主題データの構成

河川環境情報地図データの主題データとして作成する項目と、各主題データに付与する図式分類コード及び属性データ項目を、表 2-1 ~ 表 2-3 に示す。

表 2-1 河川環境情報地図主題データ項目の図式分類コードと属性内容

調査項目	レイヤ名	レイヤコード (図式分類コード)	形状種別	属性1	属性2	属性3	属性4	属性5	属性6	属性7	属性8	属性9	属性10	備考
魚類調査	調査地区範囲境界線	WL1311	ライン	-										
	調査地区範囲	WA1312	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号							
	調査地区	WP1313	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号							
	調査対象環境区分(水域)境界線	WL1411	ライン	-										
	調査対象環境区分(水域)	WA1412	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	水域環境区分コード	調査回	調査年月日				
	調査対象環境区分(水際部)境界線	WL1413	ライン	-										
	調査対象環境区分(水際部)	WA1414	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	水際部環境区分コード	調査回	調査年月日				
	調査対象環境区分(水際部)線	WL1415	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	水際部環境区分コード	調査回	調査年月日				
	調査箇所境界線	WL1416	ライン	-										
	調査箇所	WA1417	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	調査箇所番号	リンクコード			
	漁具設置箇所	WP1418	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	調査箇所番号	漁具分類コード			
	撮影方向	WL1491	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日					
	撮影位置	WP1492	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日					
	川の流れの方向	WL1493	ライン	-										
コメント	WP1499	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	テキスト					
底生動物調査	調査地区範囲境界線	WL2311	ライン	-										
	調査地区範囲	WA2312	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号							
	調査地区	WP2313	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号							
	調査対象環境区分(水域)境界線	WL2411	ライン	-										
	調査対象環境区分(水域)	WA2412	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	水域環境区分コード	調査回	調査年月日				
	調査対象環境区分(水際部)境界線	WL2413	ライン	-										
	調査対象環境区分(水際部)	WA2414	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	水際部環境区分コード	調査回	調査年月日				
	調査対象環境区分(水際部)線	WL2415	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	水際部環境区分コード	調査回	調査年月日				
	定性採集境界線	WL2416	ライン	-										
	定性採集範囲	WA2417	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	詳細な調査環境コード	リンクコード			
	定量採集位置(コドラート位置)	WP2418	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	詳細な調査環境コード	コドラート番号	リンクコード		
	定量採集(汽水域)線	WL2419	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	詳細な調査環境コード				
	撮影方向	WL2491	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日					
	撮影位置	WP2492	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日					
川の流れの方向	WL2493	ライン	-											
コメント	WP2499	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	テキスト					
植物調査(相調査)	調査地区範囲境界線	WL3611	ライン	-										
	調査地区範囲	WA3612	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号							
	調査地区	WP3613	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号							
	踏査ルート	WL3712	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	リンクコード				
	重要種確認位置	WP3713	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	確認位置No.	リンクコード			
	特定外来種確認位置	WP3714	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	確認位置No.	リンクコード			
	撮影方向	WL3791	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日					
	撮影位置	WP3792	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日					
	川の流れの方向	WL3793	ライン	-										
	コメント	WP3799	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	テキスト				

表 2-2 河川環境情報地図主題データ項目の図式分類コードと属性内容

調査項目	レイヤ名	レイヤコード (図式分類コード)	形状種別	属性1	属性2	属性3	属性4	属性5	属性6	属性7	属性8	属性9	属性10	備考
鳥類調査	スポットセンサ調査箇所	WP4542	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査箇所番号	調査回	調査年月日	リンクコード				
	スポットセンサ視野範囲境界線	WL4543	ライン	-										
	スポットセンサ視野範囲	WA4544	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査箇所番号	調査回	調査年月日					
	集団分布地境界線	WL4545	ライン	-										
	集団分布地	WA4546	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査箇所番号	調査回	調査年月日	リンクコード				
	撮影方向	WL4591	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査箇所番号	調査回	調査年月日					
	撮影位置	WP4592	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査箇所番号	調査回	調査年月日					
	川の流れの方向	WL4593	ライン	-										
コメント	WP4599	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査箇所番号	調査回	調査年月日	テキスト					
両生類・爬虫類・哺乳類調査	調査地区範囲境界線	WL5411	ライン	-										
	調査地区範囲	WA5412	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号							
	調査地区	WP5413	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号							
	フィールドサイン調査ルート	WL5511	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	リンクコード				
	フィールドサイン確認場所	WP5512	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	確認状態コード	観察No.	リンクコード		
	トラップ設置箇所境界線	WL5513	ライン	-										
	トラップ設置箇所	WA5514	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	トラップ設置箇所番号	トラップ種類コード	設置トラップ数	リンクコード	
	無人撮影装置設置位置	WP5515	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日					
	撮影方向	WL5591	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日					
	撮影位置	WP5592	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日					
川の流れの方向	WL5593	ライン	-											
コメント	WP5599	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	テキスト					
陸上昆虫類調査	調査地区範囲境界線	WL6311	ライン	-										
	調査地区範囲	WA6312	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号							
	調査地区	WP6313	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号							
	任意採集法調査ルート	WL6413	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査箇所番号	調査回	調査年月日	陸上昆虫類等調査方法コード	リンクコード		
	任意採集法以外の実施地点	WP6414	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査箇所番号	調査回	調査年月日	陸上昆虫類等調査方法コード	リンクコード		
	撮影方向	WL6491	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日					
	撮影位置	WP6492	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日					
	川の流れの方向	WL6493	ライン	-										
コメント	WP6499	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	テキスト					

表 2-3 河川環境情報地図主題データ項目の図式分類コードと属性内容

調査項目	レイヤ名	レイヤコード (図式分類コード)	形状種別	属性1	属性2	属性3	属性4	属性5	属性6	属性7	属性8	属性9	属性10	備考	
河川環境基図作成調査	調査地区範囲境界線	WL8211	ライン	-											
	調査地区範囲	WA8212	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号								
	調査地区	WP8213	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号								
	植物群落境界線	WL8311	ライン	-										陸域(植生図作成)調査	
	植物群落	WA8312	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	基本分類番号	群落コード	群落表示コード	調査回	調査年月日	群落属性		陸域(植生図作成)調査	
	植物群落組成調査地点(コドラート位置)	WP8313	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	コドラート番号	調査回	調査年月日	リンクコード				陸域(群落)調査	
	植生断面調査 歩行ルート	WL8314	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	リンクコード				陸域(植生断面)調査	
	水域環境区分境界線	WL8315	ライン	-											
	水域環境区分	WA8316	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	水域環境区分コード	調査回	調査年月日						水域調査
	水際部環境区分境界線	WL8317	ライン	-											水域調査
	水際部環境区分	WA8318	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	水際部環境区分コード	調査回	調査年月日						水域調査
	水際部環境区分線	WL8319	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	水際部環境区分コード	調査回	調査年月日						水域調査
	河川横断工作物境界線	WL8320	ライン	-											構造物調査
	河川横断工作物範囲	WA8321	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査回	調査年月日	施設コード	リンクコード					構造物調査
	樋門・樋管境界線	WL8322	ライン	-											構造物調査
	樋門・樋管	WA8323	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査年月日								構造物調査
	魚道境界線	WL8324	ライン	-											構造物調査
	魚道	WA8325	ポリゴン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査年月日								構造物調査
	撮影方向	WL8391	ライン	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日						
	撮影位置	WP8392	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日						
川の流れの方向	WL8393	ライン	-												
コメント	WP8399	ポイント	調査管理番号	河川コード	調査年度	調査地区番号	調査回	調査年月日	テキスト						

2.3.2 属性データの記述内容

ここでは、属性データとして記述する内容について、概略で説明する。

(1) 共通属性

複数の調査で共通に扱われる属性レコードの記載事項を以下に示す。英数字は、半角で記載する。

1) 調査管理番号（全調査項目）

調査データに対して一意に振られ効率的な管理を行うための番号であり、「河川水辺の国勢調査入出力システム [河川版]」に業務を登録すると自動的に発番される。

調査管理番号は、「河川水辺の国勢調査入出力システム [河川版]」の業務設定画面において確認する。

調査管理番号の仕様：

R 年度_地方整備局番号_事務所番号_調査項目_システム発行 ID

2) 河川コード（全調査項目）

「河川水辺の国勢調査入出力システム [河川版]」に搭載されている河川マスタのコード（13 桁）を使用する。

例）河川マスタ上のコード：9-81-103-001-000-7

3) 調査年度（全調査項目）

調査年度は西暦 4 桁で以下のとおり示す。

調査年度：yyyy

4) 調査地区番号（全調査項目）

調査実施した地区を取得するための番号であり、詳細は以下のとおり漢字名及び連番の組合せとする（「平成 18 年度版 河川水辺の国勢調査基本調査マニュアル [河川版]」に準拠）。

調査地区番号： No

項 目	詳 細
	水系名の頭文字
	河川名の頭文字
	事務所の頭文字
No	河川毎に下流から連番

5)調査対象環境区分（水域環境区分）コード（魚類、底生動物調査の項目）

水域環境区分コード	水域環境区分	備考
1000	瀬	淡水域
1010	早瀬	淡水域
2010	淵	淡水域
3010	湧水	淡水域
3020	ワンド・たまり	淡水域
3030	湛水域	淡水域
4010	その他(沈水植物)	淡水域
4020	その他(水際の植物)	淡水域
4030	その他(植物のない河岸部)	淡水域
4040	その他	淡水域
5010	干潟	汽水域
5020	その他	汽水域

6)調査対象環境区分（水際部環境区分コード）（魚類、底生動物、河川環境基図調査の項目）

コード	水際部の状況			備考
010101	人工構造物(01)	護岸等(01)	コンクリート護岸(01)	
010102			鋼矢板護岸(02)	
010103			カゴ工(03)	
010104			捨石工(04)	
010105			木工(05)	
010106			そだ工(06)	
010107			その他の護岸等(07)	
010201		根固め(02)	コンクリートブロック(01)	
010202			木工沈床(02)	
010203			そだ沈床(03)	
010204			その他の根固め(04)	
020101	自然環境(02)	植生草本(01)	抽水植物(01)	
020102			沈水植物(02)	
020103			浮葉植物(03)	
020104			ヨシ類(04)	
020105			その他の草本(05)	
020106			浮遊植物(06)	
020206		植生木本(02)	ヤナギ低木林(06)	
020207			ヤナギ高木林(07)	
020202			低木林(02)	
020208			広葉樹林(08)	
020209			針葉樹林(09)	
020210			竹林(10)	
020204			根茎(04)	
020301		裸地(03)	岩(01)	
020302			崖(02)	
020303			石礫地(03)	
020304	砂礫地(04)			
020305	砂泥地(05)			

7)調査回（全調査項目）

各調査において実施された調査の回数の番号を記述する。

8)調査年月日（全調査項目）

調査年月日は西暦 8 桁で以下のとおり示す。

調査年月日：yyyymmdd

9)調査箇所番号

各調査地区内の調査箇所を把握するための番号であり、下流から上流への連番として定義される。

10)リンクコード

G I S データと C S V データの連携をしやすくするコードであり、CSV の調査結果データに関連する G I S データに、リンクコードを付与する。リンクコードデータは、入出力システムから出力される CSV データを参照。体系は以下に示す。

【河川/ダム区分】

R：河川

D：ダム

【日本語ローマ字頭文字】

G：魚類

T：底生動物

S：植物

C：鳥類

H：両生類・爬虫類・哺乳類

K：陸上昆虫類等

R：河川環境基図

【調査項目の調査種別単位】

GN：魚類調査

TQ：底生動物の定量調査

TF：底生動物の定性調査

SF：植物相調査

SO：植物重要種および特定外来種

SQ：植物組成調査

SS：植物断面調査

CS：鳥類スポットセンサス調査

CG：鳥類集団分布調査

HR：両生類・爬虫類・哺乳類フィールドサイン調査ルート

HF：両生類・爬虫類・哺乳類フィールドサイン調査

HT：両生類・爬虫類・哺乳類トラップ調査

KN：陸上昆虫類等の各調査

RK：構造物調査

【識別番号】

- ・各調査単位に4桁の昇順の番号

(リンクコードのサンプル)

・河川の魚類調査の場合：RGN0001

・河川の底生動物の定性調査の場合：RTQ0001

11)コメント(全調査項目)

その他調査時に気付いたことをコメントとして記述する。

(2)魚類調査の属性

魚類調査で扱われる属性レコードの記載事項を以下に示す。

1)漁具分類コード

魚類の調査方法を判別するためのコードは以下のとおりとする。

コード	調査方法
01	投網
02	夕毛網
03	定置網
04	刺網
05	サデ網
06	はえなわ
07	どう
08	地曳網
09	玉網
10	カゴ網
11	セルびん
12	潜水捕獲
13	電撃捕魚器
14	潜水観察
15	掘り返し
99	その他

(3)底生動物調査の属性

底生動物調査で扱われる属性レコードの記載事項を以下に示す。

1)詳細な調査環境コード

コード	底生環境区分	備考
101	流速が速くて川底が石礫	淡水域
102	流速が速くて落葉がたまっている	淡水域
103	流速が遅くて川底が石礫	淡水域
104	流速が遅くて川底が砂	淡水域
105	ほとんど流速なく水中に落葉たまっている	淡水域
106	水深が深い	淡水域
107	大きな石の下	淡水域
108	河岸付近で水深が浅く川底が砂礫	淡水域
109	沈水植物の群落内	淡水域
110	植物などが水に浸かっている	淡水域
111	ヨシ帯等の抽水植物内	淡水域
112	蘚苔類のマット(モスマット)	淡水域
113	倒木、木の根等が水に浸かっている	淡水域
114	岩盤、コンクリートブロック	淡水域
115	抽水植物や水際の植物のない河岸部	淡水域
116	飛沫帯	淡水域
117	湧水	淡水域
118	ワンド、細流	淡水域
119	池、水たまり	淡水域
120	河川横断工作物による湛水域	淡水域
121	その他	淡水域
201	干潟の砂、泥	汽水域
202	潮だまり	汽水域
203	転石	汽水域
204	ヨシ原	汽水域
205	海藻(草)類	汽水域
206	大きなごみ周辺	汽水域
207	細かいごみ周辺	汽水域
208	杭、消波ブロック	汽水域
209	淡水の流入する箇所	汽水域
210	水深の深い箇所	汽水域
211	その他	汽水域

2)コドラート番号

底生動物調査を実施した箇所のコドラート番号を記述する。

(4)植物調査の属性

1)確認位置 No.

重要種及び特定外来種が確認された場合には、その確認位置 No.を記述する。

(5)両生類・爬虫類・哺乳類調査の属性

両生類・爬虫類・哺乳類調査で扱われる属性レコードの記載事項を以下に示す。

1)確認状態コード

確認状態を判別するためのコードは以下のとおりである。

コード	確認形態	備考
01	捕獲・目撃（写真あり）	
02	目撃（写真なし）	
03	フィールドサイン（鳴き声のみも含む）	
99	その他	

2)観察 No

確認した生物毎の番号を記述する。

3)トラップ設置箇所番号

トラップ設置箇所の下流からの連番を記述する。

4)トラップ種類コード

シャーマン型トラップ、墜落かん等のトラップ種類コードを記述する。

コード	トラップ種類
01	墜落かん
02	シャーマン型トラップ
03	カメトラップ
04	モールドトラップ
99	その他

5)設置トラップ数

設置箇所毎のトラップ数を記述する。

(6)陸上昆虫類等調査の属性

陸上昆虫類等調査で扱われる属性レコードの記載事項を以下に示す。

1)陸上昆虫類等調査方法コード

陸上昆虫類等の調査方法を判別するためのコードは以下のとおりとする。

コード	調査方法	備考
01	任意採集法	
02	ライトトラップ法	
03	ピットフォールトラップ法	
04	目撃法	
99	その他	

(7)河川環境基図作成調査の属性

1)基本分類番号

群落名等に対応する基本分類番号は以下のとおりである。

コード	内容	備考
01	沈水植物群落	
02	浮葉植物群落	
03	塩沼植物群落	
04	砂丘植物群落	
05	一年生草本群落	
06	多年生広葉草本群落	
07	単子葉草本群落（ヨシ群落）	
08	単子葉草本群落（ツルヨシ群落）	
09	単子葉草本群落（オギ群落）	
10	単子葉草本群落（その他の単子葉草本群落）	
11	ヤナギ低木林	
12	ヤナギ高木林	
13	その他の低木林	
14	落葉広葉樹林	
15	落葉針葉樹林	
16	常緑広葉樹林	
17	常緑針葉樹林	
18	植林地（竹林）	
19	植林地（スギ・ヒノキ）	
20	植林地（その他）	
21	果樹園	
22	畑	
23	水田	
24	人工草地	
25	グラウンドなど	
26	人工構造物	
27	自然裸地	
28	開放水面	
29	その他	
30	不明	

2) 群落コード

「河川水辺の国勢調査入出力システム [河川版]」に搭載されている植物群落マスタの群落コードを使用する。

例) オオカナダモ群落 : 1001

3) 群落表示コード

「河川水辺の国勢調査入出力システム [河川版]」に搭載されている植物群落マスタの群落表示コードを使用する。

例) オオカナダモ群落 : 011

4) 群落属性

各群落の詳細な属性を記入する。

例) : 群落名 : 芝地 グラウンド、運動公園、ゴルフ場、等
人工構造物 道路、人工護岸、橋梁、宅地、等

5) コドラート番号

植物群落組成調査を実施した箇所のコドラート番号を記述する。

6) 施設コード

河川横断工作物に対する施設コードを記入します。施設コードは以下から選択します。

コード	分類
01	ダム・砂防ダム
02	堰・落差工
03	床止め
04	伏せ越し
90	不明
99	その他

2.3.3 主題データのファイル名

各主題データに対応するファイル名を、表 2-4～表 2-6 に示す。

表 2-4 河川環境情報地図データ 主題データファイル名

調査項目	レイヤ名	ファイル名	データの内容	
魚類調査	調査地区範囲境界線	m-g-chikukyokai.arc	調査地区境界線を示す線データ	
	調査地区範囲	m-g-chikuhani.pgn m-g-chikuhani.atr	調査地区範囲を示す面データ 調査地区属性データ	
	調査地区	m-g-chiku.pnt m-g-chiku.atr	調査地区の中心点を示す点データ 調査地区中心点属性データ	
	調査対象環境区分(水域)境界線	m-g-suiikiyokai.arc	調査対象環境区分(水域)境界線を示す線データ	
	調査対象環境区分(水域)	m-g-suiiki.pgn m-g-suiiki.atr	調査対象環境区分(水域)を示す面データ 調査対象環境区分(水域)属性データ	
	調査対象環境区分(水際部)境界線	m-g-suisaikyokai.arc	調査対象環境区分(水際)境界線を示す線データ	
	調査対象環境区分(水際部)	m-g-suisai.pgn m-g-suisai.atr	調査対象環境区分(水際)を示す面データ 調査対象環境区分(水際)属性データ	
	調査対象環境区分(水際部)線	m-g-suisaisen.arc m-g-suisaisen.atr	調査対象環境区分(水際)を示す線データ 調査対象環境区分(水際)属性データ	
	調査箇所境界線	m-g-kashokyokai.arc	調査箇所境界線を示す線データ	
	調査箇所	m-g-kasho.pgn m-g-kasho.atr	調査箇所を示す面データ 調査箇所属性データ	
	漁具設置箇所	m-g-gyogu.pnt m-g-gyogu.atr	漁具を設置してある箇所を示す点データ 漁具設置箇所属性データ	
	撮影方向	m-g-satsueihou.arc m-g-satsueihou.atr	撮影方向を示す線データ 撮影方向属性データ	
	撮影位置	m-g-satsueiichi.pnt m-g-satsueiichi.atr	撮影位置を示す点データ 撮影位置属性データ	
	川の流れの方向	m-g-naqare.arc	川の流れの方向を示す線データ	
	コメント	m-g-comment.pnt m-g-comment.atr	コメント等を示す点データ コメント等属性データ	
	底生動物調査	調査地区範囲境界線	m-t-chikukyokai.arc	調査地区境界線を示す線データ
		調査地区範囲	m-t-chikuhani.pgn m-t-chikuhani.atr	調査地区範囲を示す面データ 調査地区属性データ
		調査地区	m-t-chiku.pnt m-t-chiku.atr	調査地区の中心点を示す点データ 調査地区中心点属性データ
		調査対象環境区分(水域)境界線	m-t-suiikiyokai.arc	調査対象環境区分(水域)境界線を示す線データ
		調査対象環境区分(水域)	m-t-suiiki.pgn m-t-suiiki.atr	調査対象環境区分(水域)を示す面データ 調査対象環境区分(水域)属性データ
		調査対象環境区分(水際部)境界線	m-t-suisaikyokai.arc	調査対象環境区分(水際)境界線を示す線データ
		調査対象環境区分(水際部)	m-t-suisai.pgn m-t-suisai.atr	調査対象環境区分(水際)を示す面データ 調査対象環境区分(水際)属性データ
		調査対象環境区分(水際部)線	m-t-suisaisen.arc m-t-suisaisen.atr	調査対象環境区分(水際)を示す線データ 調査対象環境区分(水際)属性データ
定性採集境界線		m-t-teiseikyokai.arc	定性採集境界線を示す線データ	
定性採集範囲		m-t-teiseihani.pgn m-t-teiseihani.atr	定性採集の範囲を示す面データ 定性採集範囲属性データ	
定量採集位置(コドラート位置)		m-t-teiryochi.pnt m-t-teiryochi.atr	定量採集位置を示す点データ 定量採集位置属性データ	
定量採集(汽水域)線		m-t-teiryosen.arc m-t-teiryosen.atr	定量採集(汽水域)を示す線データ 定量採集(汽水域)属性データ	
撮影方向		m-t-satsueihou.arc m-t-satsueihou.atr	撮影方向を示す線データ 撮影方向属性データ	
撮影位置		m-t-satsueiichi.pnt m-t-satsueiichi.atr	撮影位置を示す点データ 撮影位置属性データ	
川の流れの方向		m-t-naqare.arc	川の流れの方向を示す線データ	
コメント		m-t-comment.pnt m-t-comment.atr	コメント等を示す点データ コメント等属性データ	

表 2-5 河川環境情報地図データ 主題データファイル名

調査項目	レイヤ名	ファイル名	データの内容	
植物調査(相調査)	調査地区範囲境界線	m-s-chikukyokai.arc	調査地区境界線を示す線データ	
	調査地区範囲	m-s-chikuhani.pgn	調査地区範囲を示す面データ	
		m-s-chikuhani.atr	調査地区属性データ	
	調査地区	m-s-chiku.pnt	調査地区の中心点を示す点データ	
		m-s-chiku.atr	調査地区中心点属性データ	
	踏査ルート	m-s-route.arc	踏査ルートを示す線データ	
		m-s-route.atr	踏査ルート属性データ	
	重要種確認位置	m-s-juyakakunin.pnt	重要種の確認場所を示す点データ	
		m-s-juyakakunin.atr	重要種確認位置属性データ	
	特定外来種確認位置	m-s-gairaikakunin.pnt	特定外来種の確認場所を示す点データ	
		m-s-gairaikakunin.atr	特定外来種確認位置属性データ	
	撮影方向	m-s-satsueihou.arc	撮影方向を示す線データ	
		m-s-satsueihou.atr	撮影方向属性データ	
	撮影位置	m-s-satsueiichi.pnt	撮影位置を示す点データ	
		m-s-satsueiichi.atr	撮影位置属性データ	
	川の流れの方向	m-s-naqare.arc	川の流れの方向を示す線データ	
	コメント	m-s-comment.pnt	コメント等を示す点データ	
m-s-comment.atr		コメント等属性データ		
鳥類調査	スポットセンサ調査箇所	m-c-spotkasho.pnt	スポットセンサ調査箇所を示す点データ	
		m-c-spotkasho.atr	スポットセンサ調査箇所属性データ	
	スポットセンサ視野範囲境界線	m-c-spotsiyakyokai.arc	スポットセンサ視野範囲境界線を示す線データ	
	スポットセンサ視野範囲	m-c-spotsiya.pgn	スポットセンサ視野範囲を示す面データ	
		m-c-spotsiya.atr	スポットセンサ視野範囲属性データ	
	集団分布地境界線	m-c-shudankyokai.arc	集団分布地境界線を示す線データ	
	集団分布地	m-c-shudan.pgn	集団分布地を示す面データ	
		m-c-shudan.atr	集団分布地属性データ	
	撮影方向	m-c-satsueihou.arc	撮影方向を示す線データ	
		m-c-satsueihou.atr	撮影方向属性データ	
	撮影位置	m-c-satsueiichi.pnt	撮影位置を示す点データ	
		m-c-satsueiichi.atr	撮影位置属性データ	
	川の流れの方向	m-c-naqare.arc	川の流れの方向を示す線データ	
	コメント	m-c-comment.pnt	コメント等を示す点データ	
		m-c-comment.atr	コメント等属性データ	
	両生類・爬虫類・哺乳類調査	調査地区範囲境界線	m-h-chikukyokai.arc	調査地区境界線を示す線データ
		調査地区範囲	m-h-chikuhani.pgn	調査地区範囲を示す面データ
m-h-chikuhani.atr			調査地区属性データ	
調査地区		m-h-chiku.pnt	調査地区の中心点を示す点データ	
		m-h-chiku.atr	調査地区中心点属性データ	
フィールドサイン調査ルート		m-h-signroute.arc	フィールドサイン調査法のルートを示す線データ	
		m-h-signroute.atr	フィールドサイン調査法のルート属性データ	
フィールドサイン確認場所		m-h-signkakunin.pnt	フィールドサインを確認した場所を示す点データ	
		m-h-signkakunin.atr	フィールドサイン確認場所属性データ	
トラップ設置箇所境界線		m-h-trapkyokai.arc	トラップ設置箇所境界線を示す線データ	
トラップ設置箇所		m-h-trapkasho.pgn	トラップ設置箇所を示す面データ	
		m-h-trapkasho.atr	トラップ設置箇所属性データ	
無人撮影装置設置位置		m-h-mujinichi.pnt	無人撮影装置設置位置を示す点データ	
		m-h-mujinichi.atr	無人撮影装置設置位置属性データ	
撮影方向		m-h-satsueihou.arc	撮影方向を示す線データ	
		m-h-satsueihou.atr	撮影方向属性データ	
撮影位置		m-h-satsueiichi.pnt	撮影位置を示す点データ	
	m-h-satsueiichi.atr	撮影位置属性データ		
川の流れの方向	m-h-naqare.arc	川の流れの方向を示す線データ		
コメント	m-h-comment.pnt	コメント等を示す点データ		
	m-h-comment.atr	コメント等属性データ		

表 2-6 河川環境情報地図データ 主題データファイル名

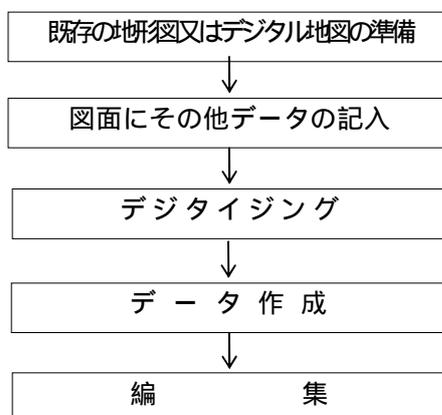
調査項目	レイヤ名	ファイル名	データの内容
陸上昆虫類調査	調査地区範囲境界線	m-k-chikukyokai.arc	調査地区境界線を示す線データ
	調査地区範囲	m-k-chikuhani.pgn	調査地区範囲を示す面データ
		m-k-chikuhani.atr	調査地区属性データ
	調査地区	m-k-chiku.pnt	調査地区中心点を示す点データ
		m-k-chiku.atr	調査地区中心点属性データ
	任意採集法調査ルート	m-k-ninisaisyuroute.arc	任意採集法調査ルートを示す線データ
		m-k-ninisaisyuroute.atr	任意採集法調査ルート属性データ
	任意採集法以外の実施地点	m-k-saisyuchiten.pnt	任意採集法以外の実施地点を示す点データ
		m-k-saisyuchiten.atr	任意採集法以外の実施地点属性データ
	撮影方向	m-k-satsueihou.arc	撮影方向を示す線データ
		m-k-satsueihou.atr	撮影方向属性データ
	撮影位置	m-k-satsueiichi.pnt	撮影位置を示す点データ
		m-k-satsueiichi.atr	撮影位置属性データ
	川の流れの方向	m-k-naqare.arc	川の流れの方向を示す線データ
	コメント	m-k-comment.pnt	コメント等を示す点データ
		m-k-comment.atr	コメント等属性データ
	河川環境基図作成調査	調査地区範囲境界線	m-r-chikukyokai.arc
調査地区範囲		m-r-chikuhani.pgn	調査地区範囲を示す面データ
		m-r-chikuhani.atr	調査地区属性データ
調査地区		m-r-chiku.pnt	調査地区の中心点を示す点データ
		m-r-chiku.atr	調査地区中心点属性データ
植物群落境界線		m-r-gunrakukyokai.arc	植物群落境界を示す線データ
植物群落		m-r-gunraku.pgn	植物群落を示す面データ
		m-r-gunraku.atr	植物群落属性データ
植物群落組成調査地点(コドラート位置)		m-r-chiten.pnt	組成調査地点を示す点データ
		m-r-chiten.atr	組成調査地点属性データ
植生断面調査 踏査ルート		m-r-danmenroute.arc	踏査ルートを示す線データ
		m-r-danmenroute.atr	踏査ルート属性データ
水域環境区分境界線		m-r-suiikiyokai.arc	調査対象環境区分(水域)境界線を示す線データ
水域環境区分		m-r-suiiki.pgn	調査対象環境区分(水域)を示す面データ
		m-r-suiiki.atr	調査対象環境区分(水域)属性データ
水際部環境区分境界線		m-r-suisaikyokai.arc	調査対象環境区分(水際)境界線を示す線データ
水際部環境区分		m-r-suisai.pgn	調査対象環境区分(水際)を示す面データ
		m-r-suisai.atr	調査対象環境区分(水際)属性データ
水際部環境区分線		m-r-suisaisen.arc	調査対象環境区分(水際)を示す線データ
		m-r-suisaisen.atr	調査対象環境区分(水際)属性データ
河川横断工作物範囲境界線		m-r-oudankkyokai.arc	河川横断工作物境界を示す線データ
河川横断工作物範囲		m-r-oudankmen.pgn	河川横断工作物を示す面データ
		m-r-oudankmen.atr	河川横断工作物属性データ
樋門・樋管境界線		m-r-himonkyokai.arc	樋門・樋管境界を示す線データ
樋門・樋管		m-r-himonmen.pgn	樋門・樋管を示す面データ
		m-r-himonmen.atr	樋門・樋管属性データ
魚道境界線		m-r-gyodoukyokai.arc	魚道境界を示す線データ
魚道		m-r-gyodoumen.pgn	魚道を示す面データ
		m-r-gyodoumen.atr	魚道属性データ
撮影方向		m-r-satsueihou.arc	撮影方向を示す線データ
		m-r-satsueihou.atr	撮影方向属性データ
撮影位置		m-r-satsueiichi.pnt	撮影位置を示す点データ
		m-r-satsueiichi.atr	撮影位置属性データ
川の流れの方向		m-r-naqare.arc	川の流れの方向を示す線データ
コメント		m-r-comment.pnt	コメント等を示す点データ
		m-r-comment.atr	コメント等属性データ

3. 河川環境情報地図データ作成作業 項目別データ取得基準細則

3.1 各項目に共通する事項

データ取得は、マップデジタイズまたはデジタルマッピングにより行う。

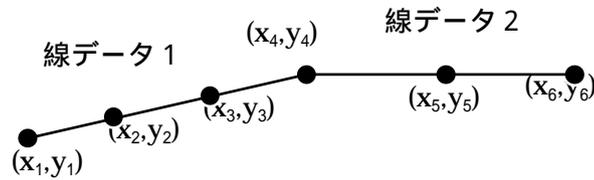
- (1)各データは、マップデジタイズまたはデジタルマッピングにより取得を行う。なお、既存のデジタル地図が存在する場合はこれを利用する。
- (2)河川環境情報地図データは、概ね 1 / 2,500 レベルの精度で入力を行うが、調査地区等の流域単位の位置を取得する河川環境情報地図データについては、1 / 25,000 レベルの精度で入力を行う。
- (3)河川環境情報地図データは全て U T M 座標系で取得するものとし、標準地域メッシュの二次メッシュを単位としてデータを格納する。
- (4)河川環境情報地図データ作成は、原則として既存の地形図またはデジタル地図から作成する流域背景データの図面出力上に、各データをプロットし、これをデジタイズして取得する。取得時に河川管理者の判断等が必要となる場合には、協議により取得方法を決定する。



(5)形状データのデジタイズ方法の原則は、以下のとおりとする。

1)点データ：中心点の座標を取得する。

2)線データ：現況河道などの河川に関わるデータは、原則として下流から上流に向かって取得する。端点は重複して取得し、同一座標とする。



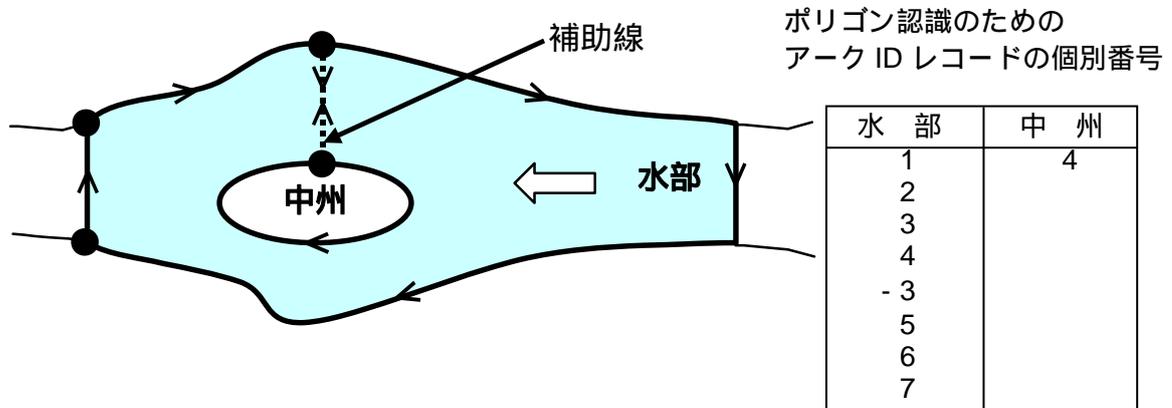
線データ 1 (4 点より構成)	=	X 座標	Y 座標
		x ₁	y ₁
		x ₂	y ₂
		x ₃	y ₃
		x ₄	y ₄

線データ 2 (3 点より構成)	=	X 座標	Y 座標
		x ₄	y ₄
		x ₅	y ₅
		x ₆	y ₆

なお、川の流れの向きを示す矢印は、線データとして上流から下流に向かって取得する。撮影方向を示す矢印に関しては、撮影箇所を始点として取得を行う。

3)面データ：ポリゴンデータは原則として右回りで取得し、終点は始点と同一座標とする。

4)多重ポリゴンデータ：中洲等の多重ポリゴンデータ（ドーナツ状）取得については、補助線（非表示）を用いて結び、ポリゴンとして閉じるものとする。また、非表示は線種タグで分類する。



5)属性データは形状データとリンクさせて、各々の属性データを取得する。

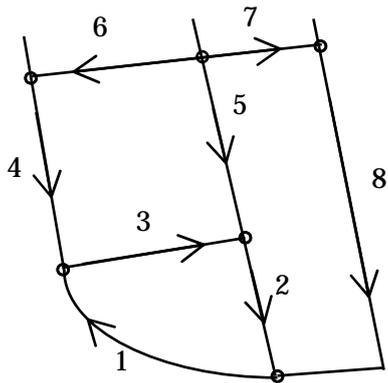
(6) (形状データのリンク方法)

1)線データが異なる情報項目（以降レイヤー）の点データのみから形成される場合および同一の線形状を持つレイヤーについては、基準となるレイヤーの座標入力を行い、得られた座標値を用いて他レイヤーの形状データを作成する。従って、下記のデータに限り、座標データは重複して持つこととなる。

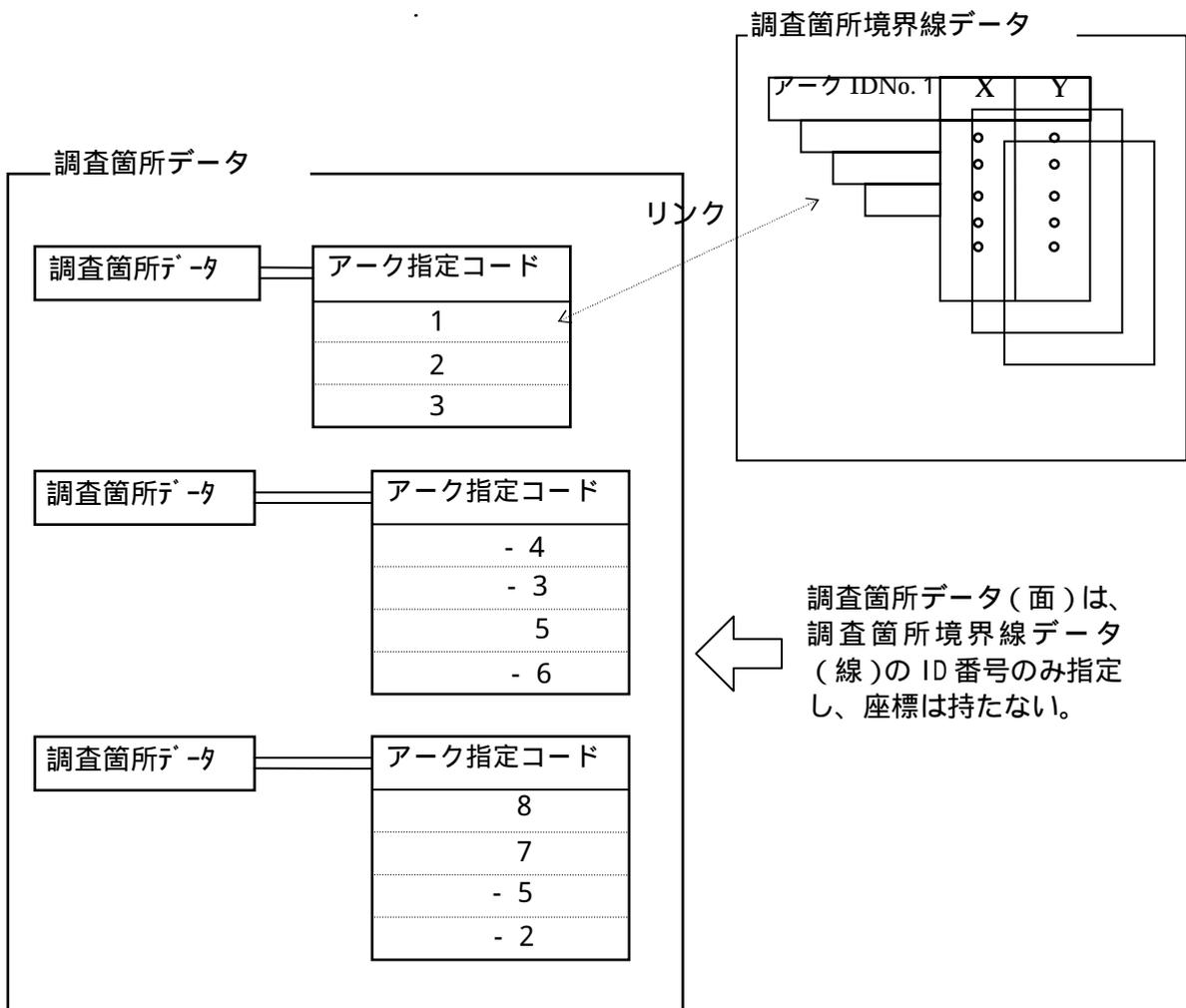
- 線データが点データのみから形成されるレイヤー 点データを座標入力し、これを用いて線データを作成する。
- 同一の線データを持つレイヤー どちらか一方のレイヤーで座標入力し、他方には同一の座標を持たせる。

(7)面データが他レイヤーの線データポリゴン認識して形成される場合は、互いにリンクさせることとし、座標データを重複して持たない。線データと面データがリンクするレイヤーは以下のとおりである。

- 線データと面データがリンクするレイヤー 線データを座標入力し、リンクさせて面データも認識させる。



- 1~8 : 調査箇所境界線データ(線)のID番号
- ← : 調査箇所境界線データ(線)のデータ取得方向
- ~ : 調査箇所データ(面)のID番号



調査箇所境界線データ(線)と調査箇所データ(面)のリンクの例

河川環境情報地図データにおける線データと面データがリンクするレイヤーは、次表に示すとおりである。

表 3-1 河川環境情報地図データにおける線データと面データがリンクするレイヤー

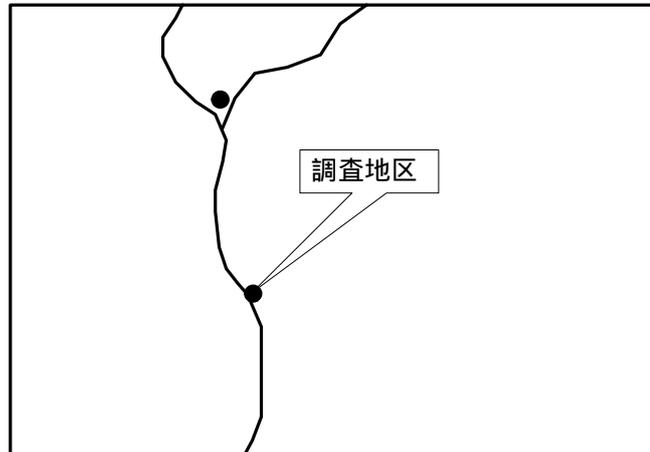
調査項目	対象データ項目	レイヤ名	形状種別
魚類調査	調査地区範囲	調査地区範囲境界線	ライン
		調査地区範囲	ポリゴン
	調査対象環境区分(水域)	調査対象環境区分(水域)境界線	ライン
		調査対象環境区分(水域)	ポリゴン
	調査対象環境区分(水際部)	調査対象環境区分(水際部)境界線	ライン
		調査対象環境区分(水際部)	ポリゴン
	調査箇所	調査箇所境界線	ライン
		調査箇所	ポリゴン
底生動物調査	調査地区範囲	調査地区範囲境界線	ライン
		調査地区範囲	ポリゴン
	調査対象環境区分(水域)	調査対象環境区分(水域)境界線	ライン
		調査対象環境区分(水域)	ポリゴン
	調査対象環境区分(水際部)	調査対象環境区分(水際部)境界線	ライン
		調査対象環境区分(水際部)	ポリゴン
	定性採集範囲(淡水域)	定性採集境界線(淡水域)	ライン
		定性採集範囲(淡水域)	ポリゴン
植物調査(相調査)	調査地区範囲	調査地区範囲境界線 調査地区範囲	ライン ポリゴン
鳥類調査	スポットセンサス視野範囲	スポットセンサス視野範囲境界線	ライン
		スポットセンサス視野範囲	ポリゴン
	集団分布地	集団分布地境界線	ライン
		集団分布地	ポリゴン
両生類・爬虫類・哺乳類調	調査地区範囲	調査地区範囲境界線	ライン
		調査地区範囲	ポリゴン
	トラップ設置箇所	トラップ設置箇所境界線	ライン
		トラップ設置箇所	ポリゴン
陸上昆虫類調査	調査地区範囲	調査地区範囲境界線 調査地区範囲	ライン ポリゴン
河川環境基図作成調査	調査地区範囲	調査地区範囲境界線	ライン
		調査地区範囲	ポリゴン
	植物群落	植物群落境界線	ライン
		植物群落	ポリゴン
	水域環境区分	水域環境区分境界線	ライン
		水域環境区分	ポリゴン
	水際部環境区分	水際部環境区分境界線	ライン
		水際部環境区分	ポリゴン
	人工構造物範囲	人工構造物範囲境界線	ライン
		人工構造物範囲	ポリゴン
樋門・樋管	樋門・樋管境界線	ライン	
	樋門・樋管	ポリゴン	
魚道	魚道境界線	ライン	
	魚道	ポリゴン	

3.2 魚類調査

(1)調査地区

調査地区は、1/25,000 地形図等に記入し、これをデジタイズする。

調査地区位置図などに基づいて、調査地区範囲の中心点を点データとして、取得する。



(2)調査地区範囲

調査地区範囲は、1/2500 地形図（河道平面図等）等に記入し、これをデジタイズする。また、取得位置は、調査地区範囲境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して調査地区範囲とする。

(3)調査対象環境区分（水域）

調査対象環境区分（水域）は、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタイズする。

また、取得位置は、調査対象環境区分（水域）境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して調査対象環境区分（水域）とする。

(4)調査対象環境区分（水際部）

1)調査対象環境区分（水際部）を面として取得する場合

調査対象環境区分（水際部）は 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタイズする。また、取得位置は調査対象環境区分（水際部）境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して調査対象環境区分（水際部）とする。

2)水際部環境区分を線として取得する場合

調査対象環境区分（水際部）を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタイズする。取得位置は調査対象環境区分(水際部)を線データとして取得する。

(5)調査箇所

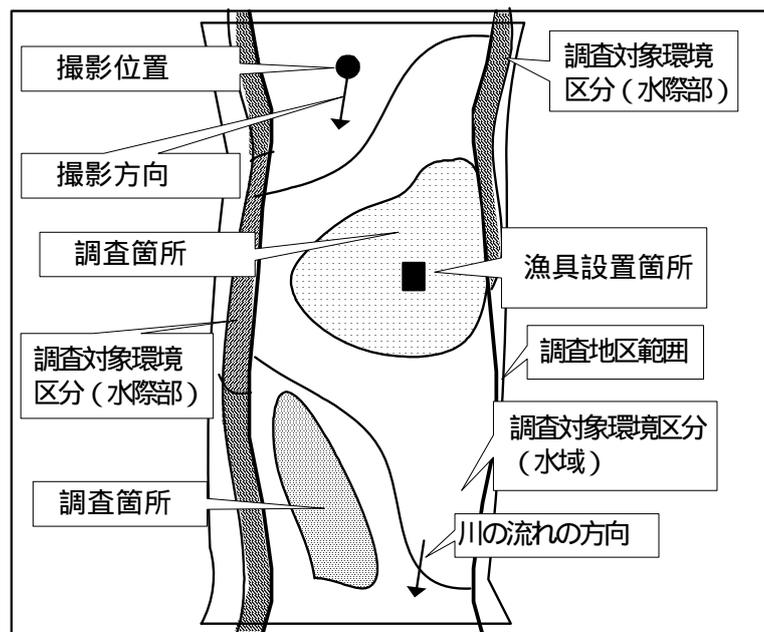
調査箇所は、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。取得位置は調査箇所境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して調査箇所とする。

(6)漁具設置箇所

漁具設置箇所は、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。漁具設置箇所は、点データとして取得する。

(7)撮影方向、位置

撮影方向、位置を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。撮影位置は点データとして取得し、撮影方向は線データとして取得する。



(8)川の流れの方向

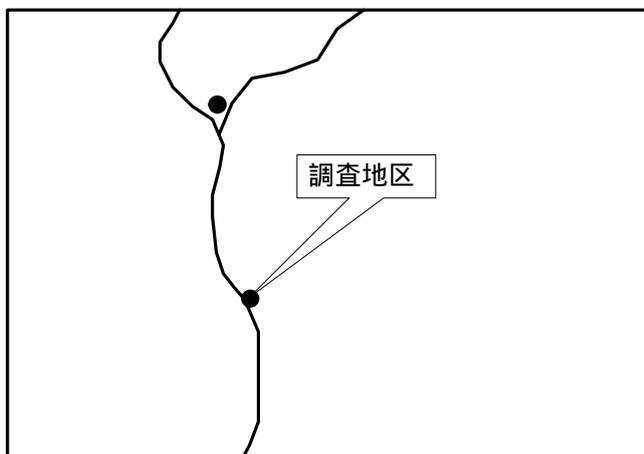
川の流れの方向を、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。取得位置は、流れの方向を線データとして取得する。

3.3 底生動物調査

(1)調査地区

調査地区は、1/25,000 地形図等に記入し、これをデジタイズする。

調査地区位置図などに基づいて、調査地区範囲の中心点を点データとして、取得する。



(2)調査地区範囲

調査地区範囲は、1/2500 地形図（河道平面図等）等に記入し、これをデジタイズする。また、取得位置は、調査地区範囲境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して調査地区範囲とする。

(3)調査対象環境区分（水域）

調査対象環境区分（水域）は、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタイズする。

また、取得位置は、調査対象環境区分（水域）境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して調査対象環境区分（水域）とする。

(4)調査対象環境区分（水際部）

1)調査対象環境区分（水際部）を面として取得する場合

調査対象環境区分（水際部）は 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタイズする。また、取得位置は調査対象環境区分（水際部）境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して調査対象環境区分（水際部）とする。

2)水際部環境区分を線として取得する場合

調査対象環境区分（水際部）を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタイズする。取得位置は調査対象環境区分(水際部)を線データとして取得する。

(5)定性採集範囲

定性採集範囲は、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。また、定性採集範囲は定性採集境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して定性採集範囲とする。

(6)定量採集位置（コドラート位置）

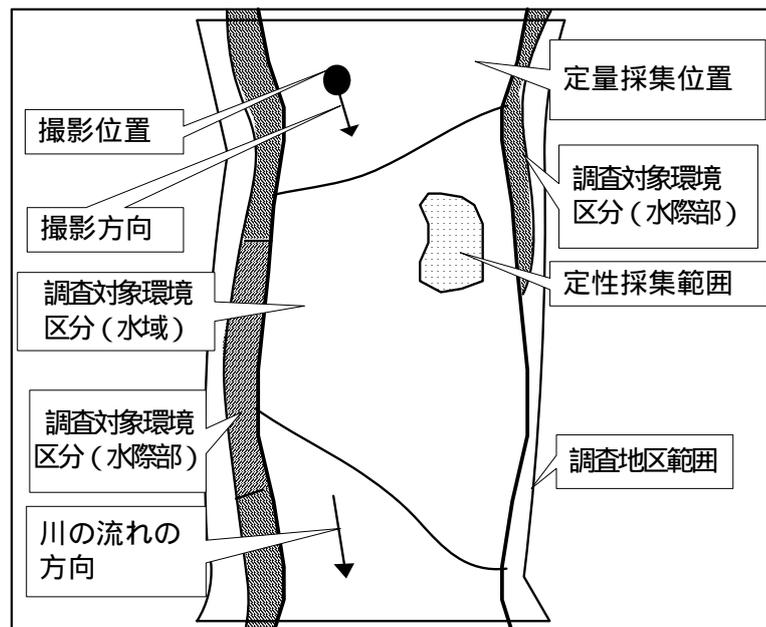
定量採集を実施した調査箇所については、1/2500 地形図（河道平面図等）にコドラート位置を記入し、これをデジタル化する。また、コドラート位置は点データとして取得する。

(7)定量採集位置（汽水域）線

定量採集位置（汽水域）を実施した調査箇所については、1/2500 地形図（河道平面図等）に定量採取を実施した定線を記入し、これをデジタル化する。また、定量採集位置（汽水域）線は線データとして取得する。

(8)撮影方向、位置

撮影方向、位置を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。撮影位置は点データとして取得し、撮影方向は線データとして取得する。



(9)川の流れる方向

川の流れる方向を、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。

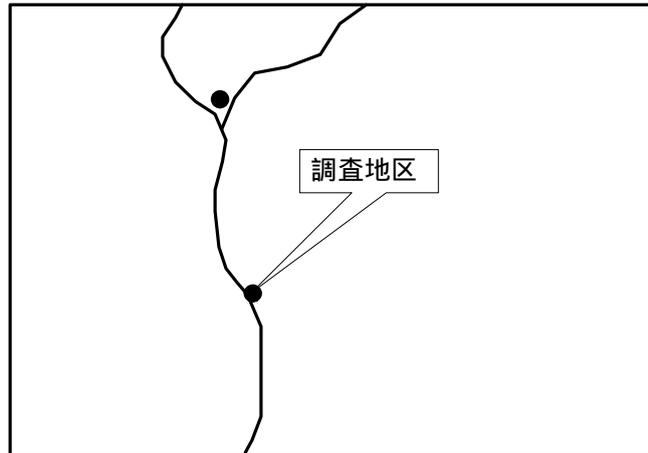
する。取得位置は、流れの方向を線データとして取得する。

3.4 植物（相）調査

(1)調査地区

調査地区は、1/25,000 地形図等に記入し、これをデジタイズする。

調査地区位置図などに基づいて、調査地区範囲の中心点を点データとして、取得する。



(2)調査地区範囲

調査地区範囲は、1/2500 地形図（河道平面図等）等に記入し、これをデジタイズする。また、取得位置は、調査地区範囲境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して調査地区範囲とする。

(3)踏査ルート

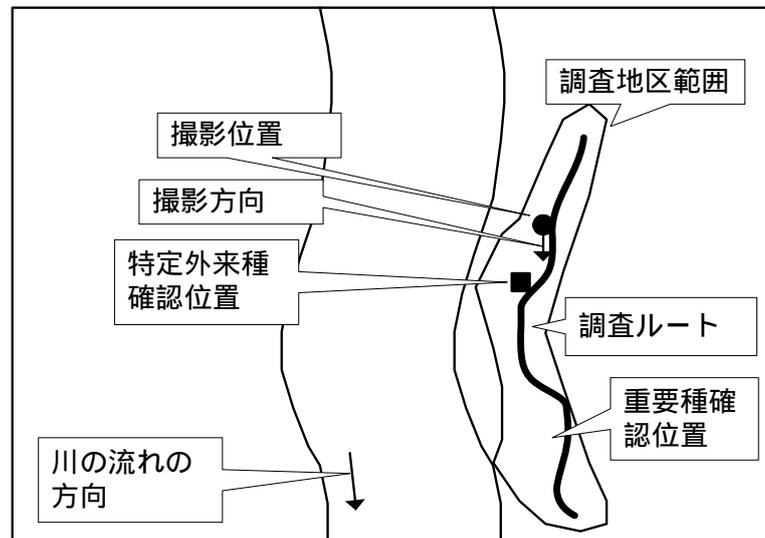
踏査ルートは 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタイズする。また、踏査ルートは線データとして取得する。

(4)重要種及び特定外来種確認位置

重要種及び特定外来種の確認位置を 1/2500 地形図に記入し、これをデジタイズする。確認位置は、点データとして取得する。

(5)撮影方向、位置

撮影方向、位置を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。撮影位置は点データとして取得し、撮影方向は線データとして取得する。



(6)川の流れる方向

川の流れる方向を、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。取得位置は、流れの方向を線データとして取得する。

3.5 鳥類調査

(1)スポットセンサス調査箇所

スポットセンサス調査箇所を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。取得位置は、スポットセンサス調査箇所を点データとして取得する。

(2)スポットセンサス視野範囲

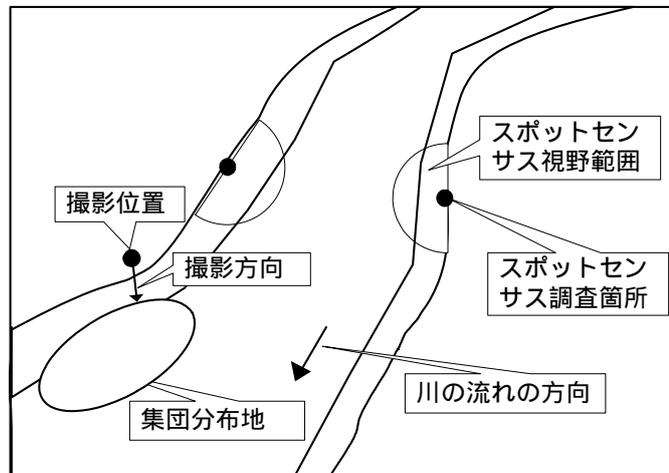
スポットセンサス視野範囲を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。また、取得範囲は、視野範囲境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して範囲を取得する。

(3)集団分布地

集団分布地は、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。また、取得範囲は、集団分布地境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して範囲を取得する。

(4)撮影方向、位置

撮影方向、位置を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。撮影位置は点データとして取得し、撮影方向は線データとして取得する。



(5)川の流れる方向

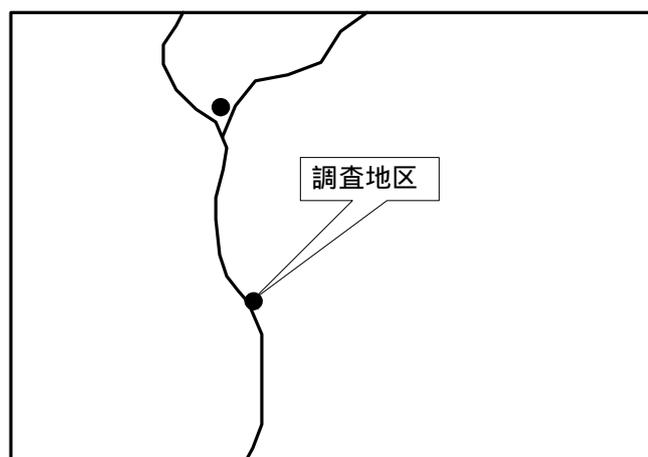
川の流れる方向を、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。取得位置は、流れの方向を線データとして取得する。

3.6 両生類・爬虫類・哺乳類調査

(1)調査地区

調査地区は、1/25,000 地形図等に記入し、これをデジタル化する。

調査地区位置図などに基づいて、調査地区範囲の中心点を点データとして、取得する。



(2)調査地区範囲

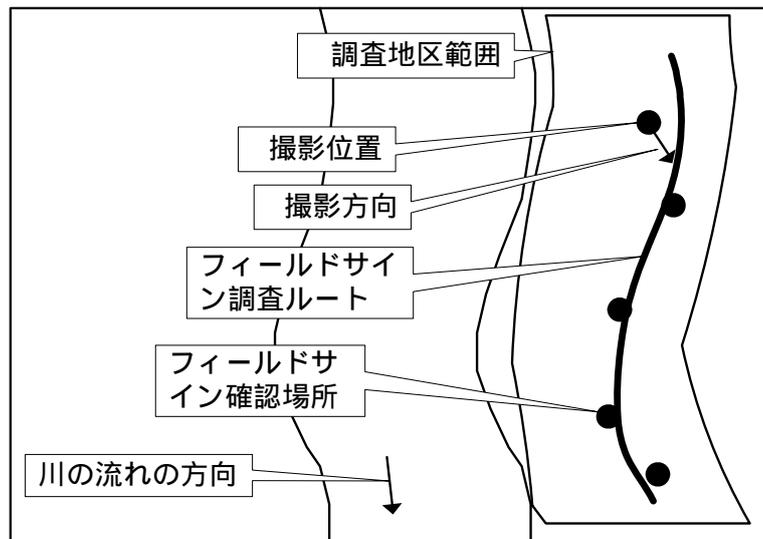
調査地区範囲は、1/2500 地形図（河道平面図等）等に記入し、これをデジタル化する。また、取得位置は、調査地区範囲境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して調査地区範囲とする。

(3)フィールドサイン調査ルート

調査ルートは 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。
また、歩行ルートは線データとして取得する。

(4)フィールドサイン確認場所

フィールドサインの確認場所を 1/2500 地形図に記入し、これをデジタル化する。
確認場所は、点データとして取得する。



(5)トラップ設置箇所

トラップ設置箇所は 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。

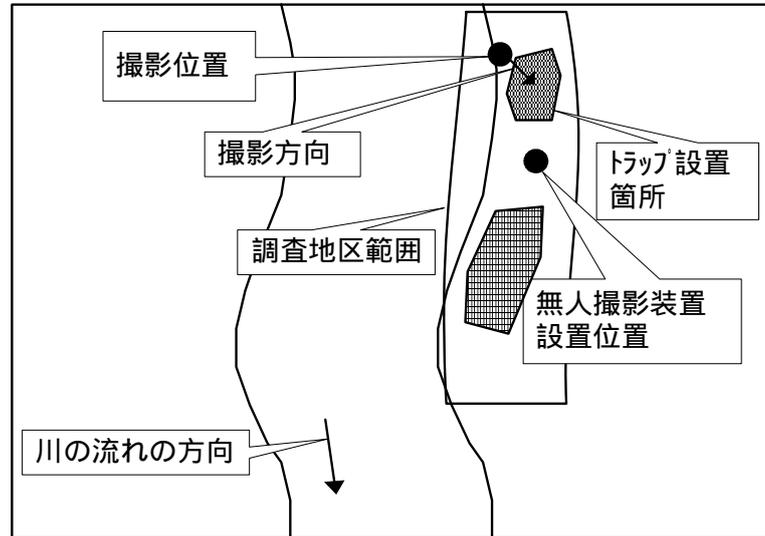
取得位置は、トラップ設置箇所境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化してトラップ設置箇所を取得する。

(6)無人撮影装置設置位置

無人撮影装置設置位置を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。無人撮影装置設置位置は点データとして取得する。

(7)撮影方向、位置

撮影方向、位置を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。撮影位置は点データとして取得し、撮影方向は線データとして取得する。



(8)川の流れの方向

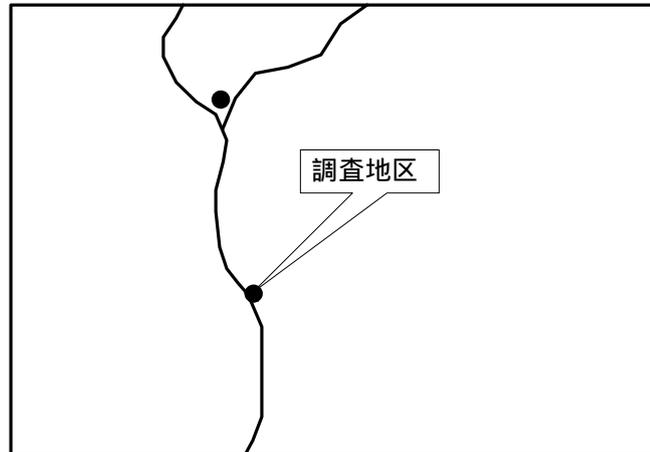
川の流れの方向を、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。取得位置は、流れの方向を線データとして取得する。

3.7 陸上昆虫類等調査

(1)調査地区

調査地区は、1/25,000 地形図等に記入し、これをデジタイズする。

調査地区位置図などに基づいて、調査地区範囲の中心点を点データとして、取得する。



(2)調査地区範囲

調査地区範囲は、1/2500 地形図（河道平面図等）等に記入し、これをデジタイズする。また、取得位置は、調査地区範囲境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して調査地区範囲とする。

(3)任意採集法調査ルート

任意採集法ルートは 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタイズする。また、調査ルートは線データとして取得する。

(4)任意採集法以外の実施箇所

スウィーピング法、ビーティング法等の任意採集法以外の実施箇所は、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタイズする。また、実施箇所は、点データとして取得する。

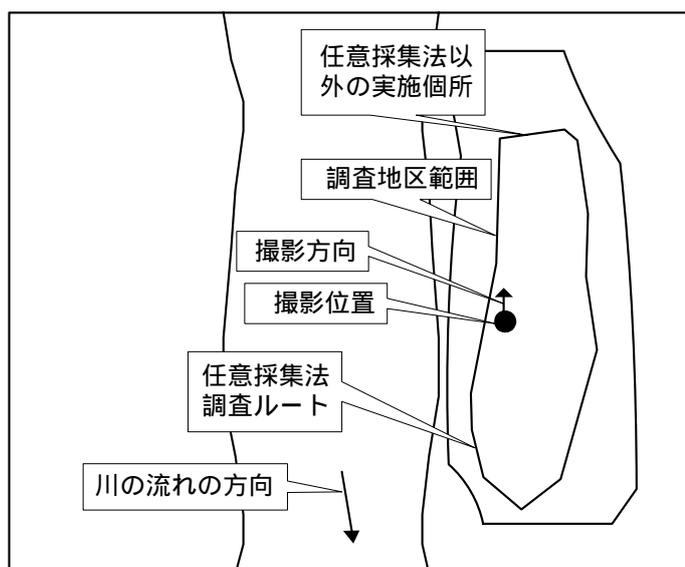
(5)撮影方向、位置

撮影方向、位置を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタイズする。撮影位置は点データとして取得し、撮影方向は線データとして取得する。

(6)川の流れの方向

川の流れの方向を、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタイズ

する。取得位置は、流れの方向を線データとして取得する。

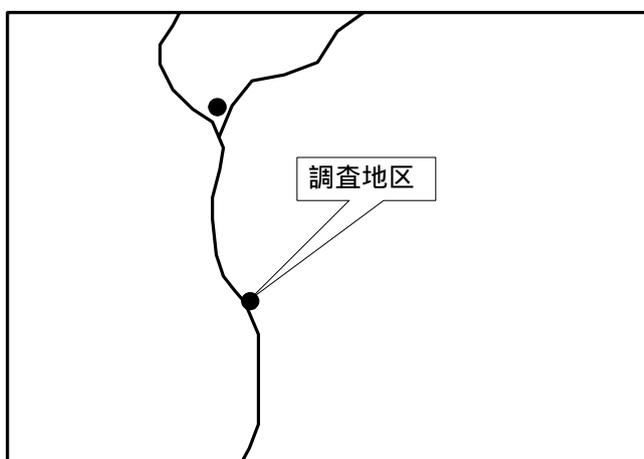


3.8 河川環境基図作成調査

(1)調査地区

調査地区は、1/25,000 地形図等に記入し、これをデジタイズする。

調査地区位置図などに基づいて、調査地区範囲の中心点を点データとして、取得する。

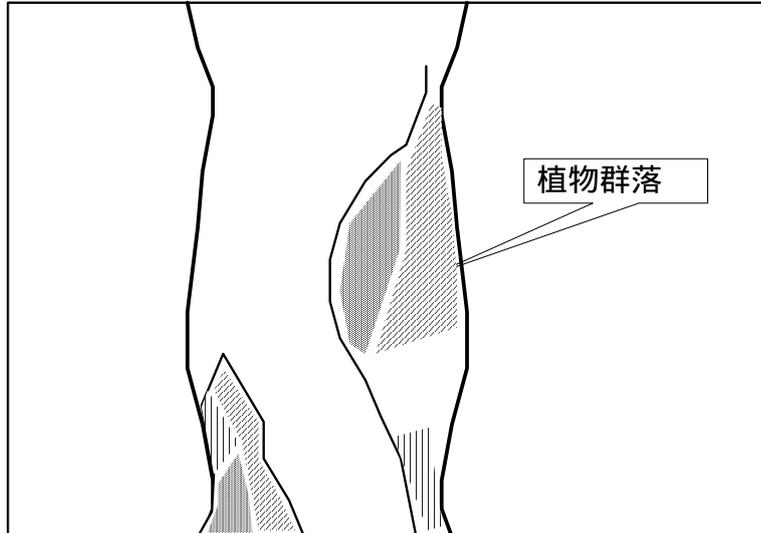


(2)調査地区範囲

調査地区範囲は、1/2500 地形図（河道平面図等）等に記入し、これをデジタイズする。また、取得位置は、調査地区範囲境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して調査地区範囲とする。

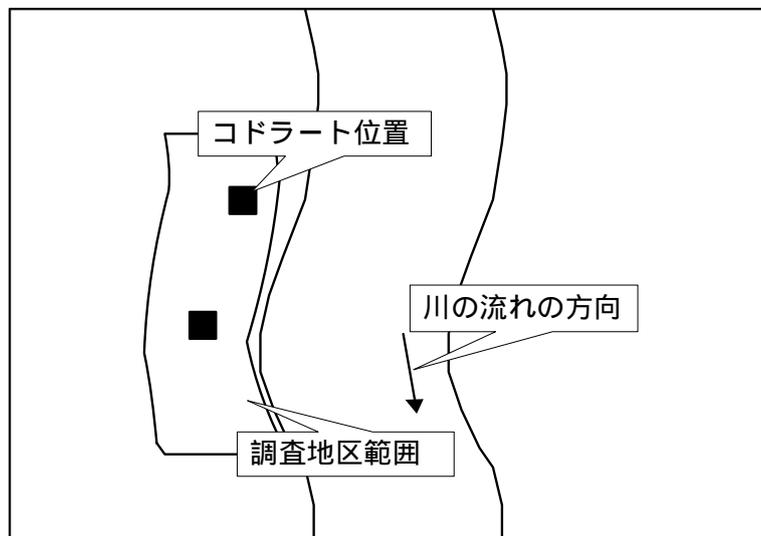
(3)植物群落

植物群落範囲を 1/2500 地形図(河道平面図等)に記入し、これをデジタル化する。また、取得範囲は、植物群落ごとの範囲を線データとして取得し、これをポリゴン化して植物群落を取得する。



(4)コドラート位置

群落組成調査におけるコドラート位置は、1/2500 地形図(河道平面図等)に記入し、これをデジタル化する。また、取得地点は、コドラート位置を点データとして取得する。

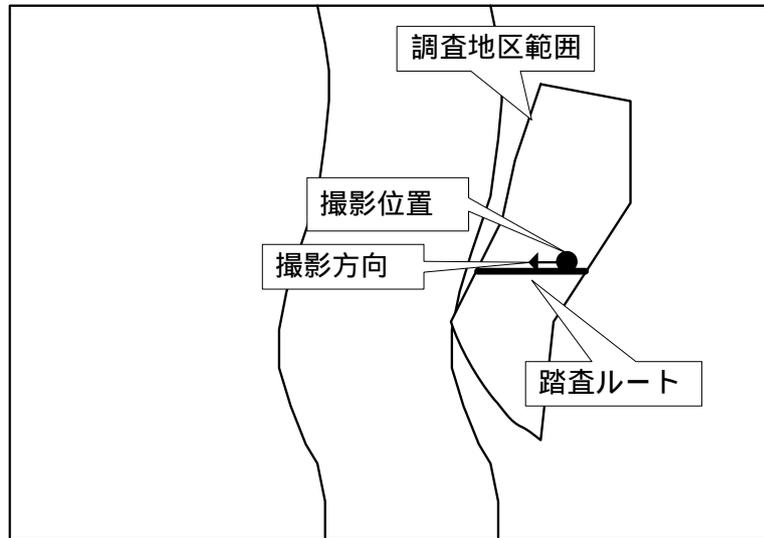


(5)植生断面調査 歩行ルート

歩行ルートは 1/2500 地形図(河道平面図等)に記入し、これをデジタル化する。また、歩行ルートは線データとして取得する。

(6)撮影方向、位置

撮影方向、位置を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。撮影位置は点データとして取得し、撮影方向は線データとして取得する。



(7)水域環境区分

水域環境区分は、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。また、取得位置は、水域環境区分境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して水域環境区分とする。

(8)水際部環境区分

1)水際部環境区分を面として取得する場合

水際部環境区分は 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。また、取得位置は水際部環境区分境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して水際部環境区分とする。

2)水際部環境区分を線として取得する場合

水際部環境区分を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。取得位置は水際部環境区分を線データとして取得する。

(9)河川横断工作物

河川横断工作物は 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。また、取得位置は河川横断工作物境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して河川横断工作物とする。

(10)樋門・樋管

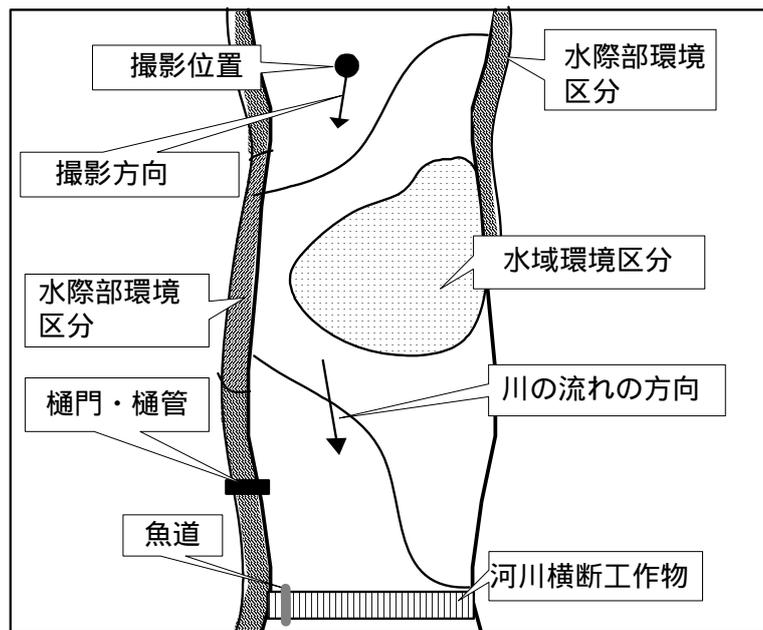
樋門・樋管は 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。また、取得位置は樋門・樋管境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して樋門・樋管とする。

(11)魚道

魚道は 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。また、取得位置は魚道境界線を線データとして取得し、これをポリゴン化して魚道とする。

(12)撮影方向、位置

撮影方向、位置を 1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。撮影位置は点データとして取得し、撮影方向は線データとして取得する。



(13)川の流れる方向

川の流れる方向を、1/2500 地形図（河道平面図等）に記入し、これをデジタル化する。取得位置は、流れの方向を線データとして取得する。